

CC-104SB

NATURAL SOUND AV SURROUND SYSTEM

取扱説明書

YAMAHA

ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハAVシステムCC-104SBをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。CC-104SBの優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくご使用いただくために、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。また、取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。

目次

ご使用になる前に	
特長	2
ご使用上の注意	3
ご使用前に	4
接続のしかた	5
① CDプレーヤーの接続	6
② スピーカーの接続	6
③ その他の機器の接続	6
● チューナーの接続	6
● レコードプレーヤーの接続	7
● グラフィックイコライザーの接続	7
● ビデオディスクプレーヤーの接続	7
● ビデオデッキの接続	8
● テレビの接続	8
④ 電源コードの接続	8
リモコンについて	9
各部の名称	10
音量・音質の調節	15
ヘッドホンで聴くには	15
REC OUTセレクターについて	15
オートファンクションについて	16
サラウンド再生	16
スピーカーシステムの設置例	16
CDを聴くには	
CD(コンパクトディスク)の取り扱いかた	17
演奏と基本操作	17
ディスプレイ表示について	19
インデックスサーチ	20
ダイレクト選曲	20
スキップ選曲	20
プログラム演奏	20・21
リピート演奏	22

タイマープレー機能	22
録音・再生を始める前に	
録音・再生を始める前に	23
カセットテープの装着	23
カセットテープについて	23
リバースモードについて	23
ピッチコントロール機能	23
テープを聴くには	
テープ再生の準備	24
テープ再生	24
曲の頭出し	25
リレー再生	25・26
録音するには	
録音の準備	26・27
録音(ダイレクト録音・手動録音)	28
CDの録音(基本的な方法)	28
CDの編集録音(2モードCDダビング)	29
TVまたはFM/AM放送の録音	30
レコードの録音	31
その他の機器の録音	31
外部機器による録音	31
録音に便利な機能	32
テープダビング	32
その他の機器を使うには	
その他の機器の操作	33
リモコンを使うには	
リモコンの操作	33
その他の機能	
タイマー録音・再生	34
マイクミキシング/ミキシング録音	34
ご参考に	
カセットデッキ部のお手入れ	35
ドルビーNRについて	35
オートテープセレクターについて	36
著作権について	36
故障かなと思ったら	37
参考仕様	38
ヤマハホットラインサービスネットワーク	39

特長

アンプ部

オートファンクション

CDプレーヤー、レコードプレーヤー、チューナー、カセットデッキがワンタッチで楽しめるオートファンクション機能を装備。

マイクミキシング

ソースに合わせて歌えるマイクミキシング機能搭載。カセットテープでカラオケするとき、ピッチコントロール機能も使えますので、音程も自由にコントロールできます。

迫力と臨場感のサラウンド再生

リアスピーカー(別売)を2台追加すると、ステレオソースが広がりのあるサラウンドを効かせてお楽しみいただけます。

REC OUTセクター

録音しながら他のソースを聴くことができます。

SUPER BASS再生

超低音域を強調して迫力のある音をお楽しみいただけます。

カセットデッキ部

録再オートリバース

テープの両面に、連続して倍速ダビング(複写録音)をすることができます。

リレー再生

テープを2本セットすれば、リバースでリレー再生することができます。

ピッチコントロール機能

DECK Aの再生スピードを変えることができます。楽器の練習やカラオケするとき音程を合わせるのに便利な機能です。

ワンタッチ録音

キーを押すだけで、入力切換→ソース再生→録音スタートを最適なタイミングで行なうダイレクト録音ができます。マイコン制御により録音時のわずらわしい操作から開放されました。

2モードCDダビング

CDをテープに録音するとき、次の2通りの便利な機能を使うことができます。

- お好みの曲だけプログラムして録音。
- テープの長さに合わせて自動選曲するテーププログラム録音。

CDプレーヤー部

テーププログラムエディット

録音時、テープの長さに合わせて自動選曲を行なうテーププログラムエディット機能搭載。オリジナルテープ作りに活用できます。

多彩な機能

プログラム演奏、リピート演奏をはじめ、CDに収められている情報を最大限に生かした多彩な演奏を、簡単操作でお楽しみいただけます。

スピーカー

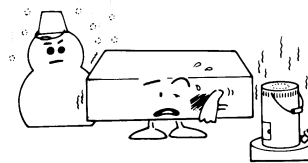
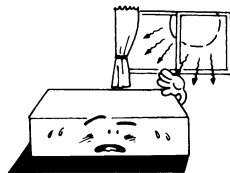
本格的防磁スピーカー

テレビの近くに置いても画像が乱れにくい防磁スピーカーを採用。

ご使用上の注意

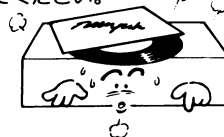
高温・低温はさけて！

窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。

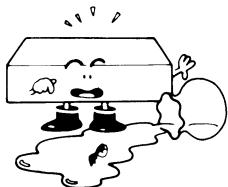


セット上面の通風孔をふさがない

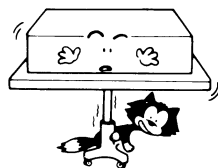
放熱を妨げないため、セット上面の通風孔の上に敷き物や、レコードなどを絶対に置かないでください。



ほこり・水気をさけて！

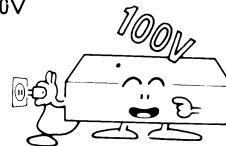


不安定な場所をさけて！

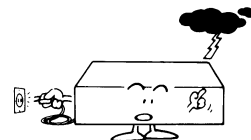


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

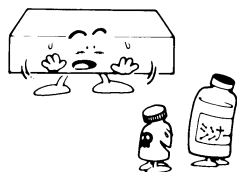


雷が近づいたら

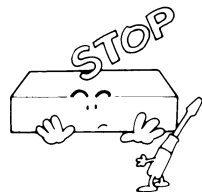


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

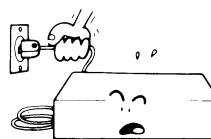
薬物厳禁



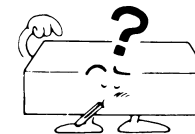
開けないで！



引っばらないで！



こわれた？



60ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

通気性に注意



保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



取扱説明書はかならず保管してください。

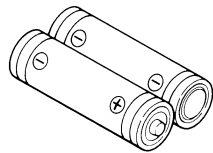
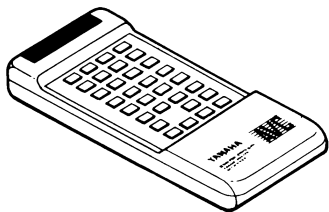


ファイルなど

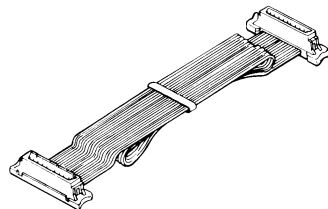
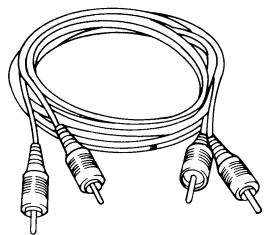
ご使用の前に

付属品を確認してください

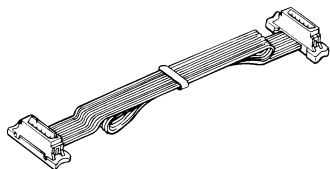
- リモコン(RS-AV10) 1個
- 単 3 乾電池(SUM-3) 2本



- CD専用ピンコード(1本)
- CDコネクタ(10ピンのもの)



- リモコンケーブル(5ピンのもの)



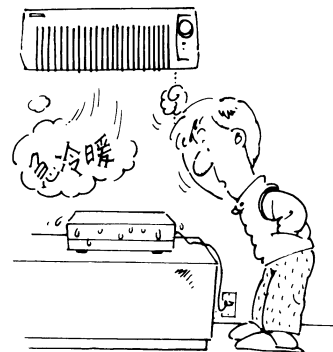
設置場所について

本機を設置する際は、振動のない水平な場所を選んでください。またラックなどに入れる場合は風通しを良くし、放熱効果を妨げないようにしてください。

結露現象について

冬期に本機を戶外から暖房中の室内に持ち込んだり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりしますと、CDプレーヤーの動作部やピックアップレンズに露がつくことがあります。露がついたままでは正常の動作ができませんので、そのようなときは、本機を室温に保ち、電源を入れたまま1～2時間放置し、露が消えてから操作してください。

結露と同じ症状は夏期のクーラーやエアコンの風が直接当たるところでも起きることがあります。その場合は本機の設置場所を変えるか、風向きを変えて冷たい風が直接当たらないようにしてください。

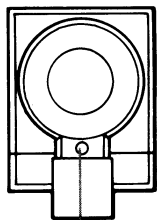


接続のしかた

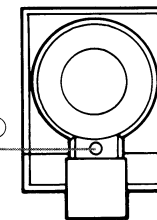
接続時の注意

- 1 本システムは、CDプレーヤー部単体では動作しません。
必ず付属のCDコネクタ(10ピン)で接続してください。
- 2 すべての機器の電源を切って接続してください。
- 3 出力コードは左チャンネル(L)、右チャンネル(R)を確認して正しく接続してください。
- 4 電源コードはすべての接続が終わってから接続してください。

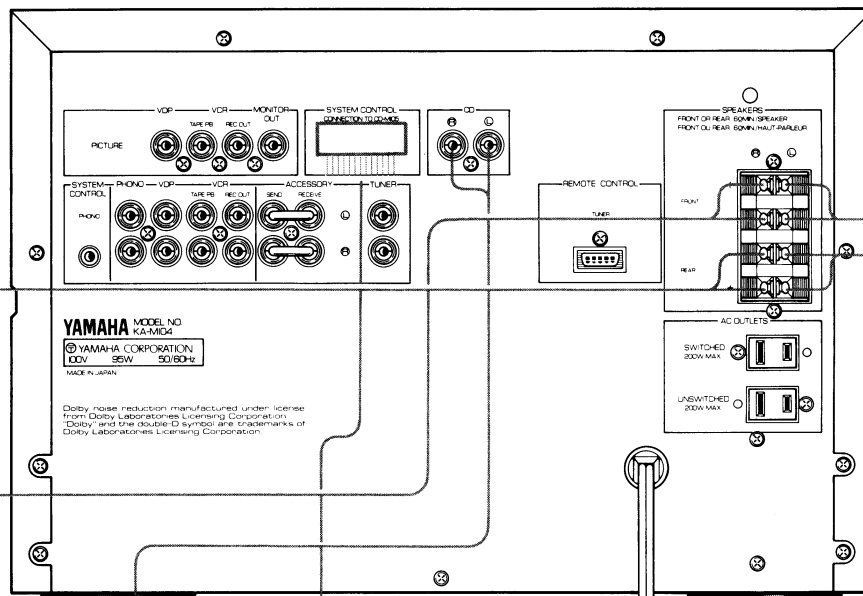
リアスピーカー(右)
NS-E555
(別売)



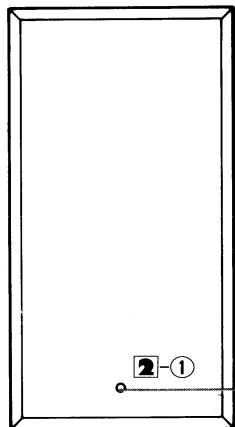
リアスピーカー(左)
NS-E555
(別売)



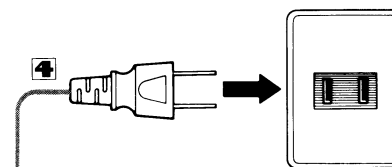
カセットアンプ部
KA-M104



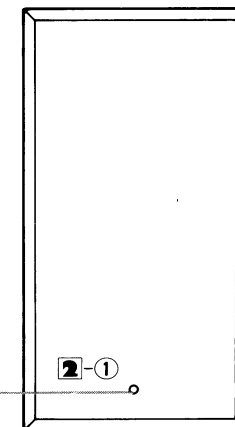
フロントスピーカー(右)
NS-333AV



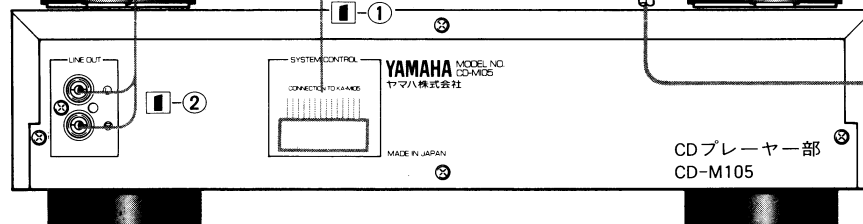
家庭用電源
コンセント
AC100V,50/60Hz



フロントスピーカー(左)
NS-333AV



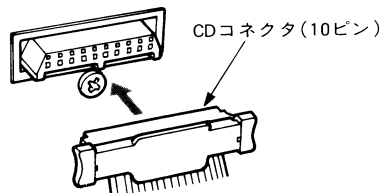
CDプレーヤー部
CD-M105



番号順に接続してください。説明文中には別売機器の接続方法も同時に記載されています。

1 CDプレーヤー部の接続

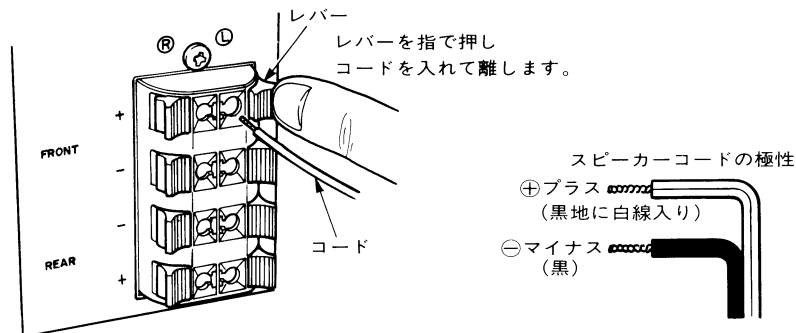
- ① 付属のCDコネクタでカセットアンプ部のSYSTEM CONTROL端子“CONNECTION TO CD-M105”とCDプレーヤーのSYSTEM CONTROL端子を接続します。CDコネクタの向きを間違えないように接続してください。



- ② 付属のCD専用ピンコードでカセットアンプ部のCD端子とCDプレーヤー部のLINE OUT端子を接続します。

2 スピーカーの接続

- ① スピーカーをカセットアンプ部のSPEAKERS端子(FRONT)に接続します。SPEAKERS端子のⓇ側に右側のスピーカーを、①側に左側のスピーカーを極性(⊕、⊖)を合わせて接続します。
- ② リアスピーカー(別売)をご使用になる場合は、カセットアンプ部のSPEAKERS端子(REAR)に接続します。本システムのリアスピーカーとしては、NS-E555(別売)が用意されています。



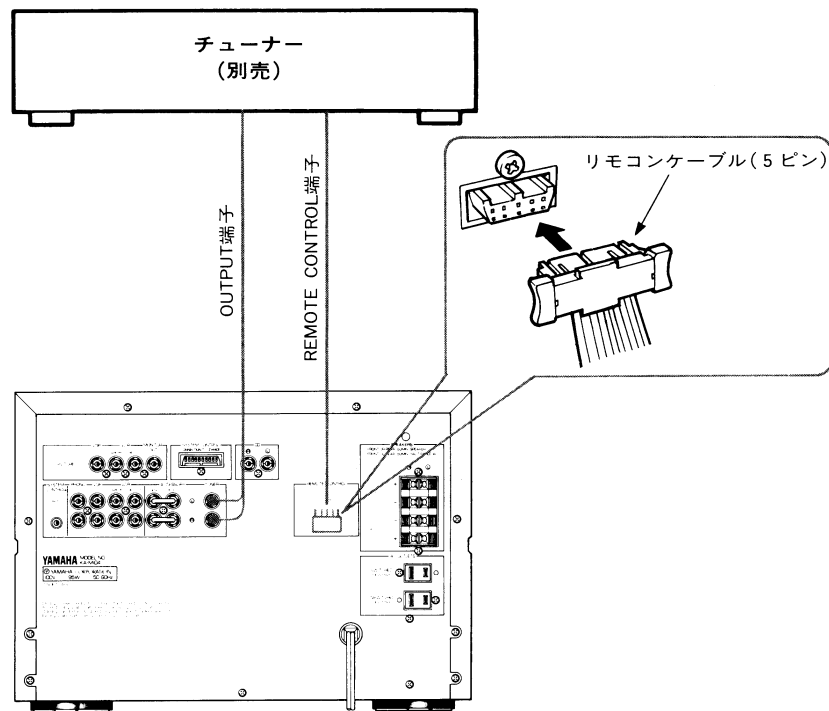
ご注意

- スピーカーコードをショートさせたり、インピーダンスの低いスピーカーをつながないでください。故障の原因になります。
- 極性が合っていない場合、音が中央に定位せずステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となってしまいますのでご注意ください。

3 その他の機器の接続

チューナー(TV-M88別売)の接続

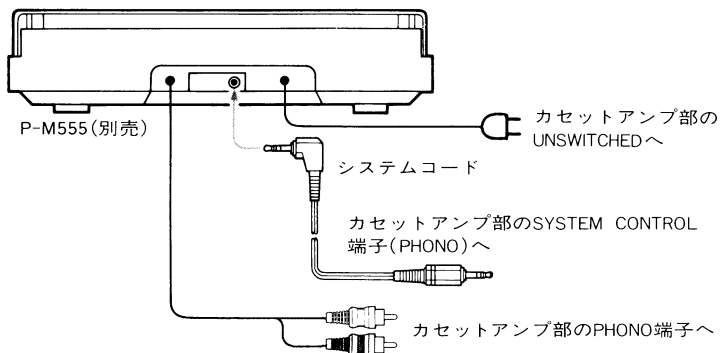
- ① チューナーのピンコードでカセットアンプ部のTUNER端子とチューナーのOUTPUT端子を接続します。



- ② 付属のリモコンケーブル(5ピンのもの)でカセットアンプ部のREMOTE CONTROL端子“TUNER”と別売チューナーのREMOTE CONTROL端子を接続します。リモコンケーブルの向きを間違えないように接続してください。
- ③ チューナーの電源プラグをカセットアンプ部のAC OUTLETS (SWITCHED)に接続します。別売グラフィックイコライザー(EQ-M555)を使用されるときは、グラフィックイコライザーの電源プラグをカセットアンプ部に接続し、チューナーの電源プラグは、グラフィックイコライザーのAC OUTLETに接続します。

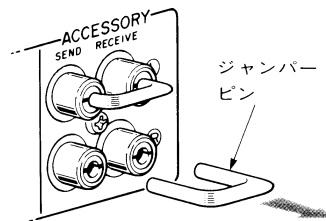
レコードプレーヤー(P-M555別売)の接続

- ①レコードプレーヤーの出力コードをカセットアンプ部のPHONO端子に接続します。
- ②レコードプレーヤーに付属のシステムコードでプレーヤーのSYSTEM CONTROL端子とカセットアンプ部のSYSTEM CONTROL端子(PHONO)に接続します。
- ③レコードプレーヤーの電源プラグをカセットアンプ部のAC OUTLETS (UNSWITCHED)に接続します。



グラフィックイコライザー(EQ-M555別売)の接続

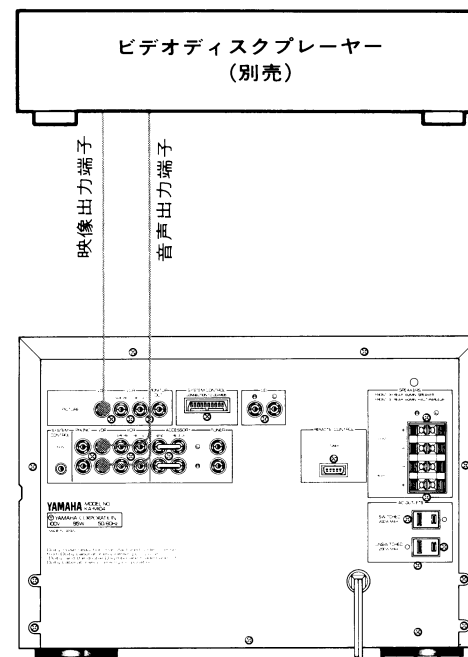
- ①カセットアンプ部のACCESSORY端子に差し込まれているジャンパーピンを2本とも抜きます。(ジャンパーピンは大切に保管してください)



- ②グラフィックイコライザーに付属のピンコードでカセットアンプ部のACCESSORY SEND端子とグラフィックイコライザーのIN端子を接続します。
- ③グラフィックイコライザーに付属のピンコードでカセットアンプ部のACCESSORY RECEIVE端子とグラフィックイコライザーのOUT端子を接続します。
- ④グラフィックイコライザーの電源プラグをカセットアンプ部のAC OUTLETS (SWITCHED)に接続します。

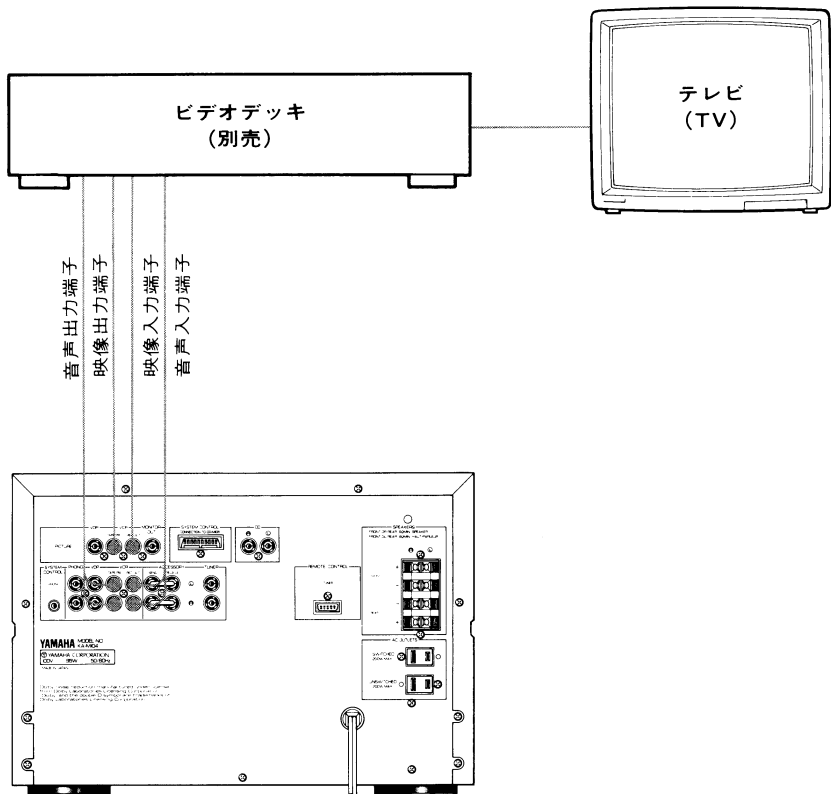
ビデオディスクプレーヤーの接続

- ①カセットアンプ部のVDP音声入力端子とビデオディスクプレーヤー(別売)の音声出力(AUDIO OUT)端子をステレオピンコード(別売)で接続します。
- ②カセットアンプ部のPICTURE端子のVDPとビデオディスクプレーヤー(別売)の映像出力(VIDEO OUT)端子をモノラルピンコード(別売)で接続します。



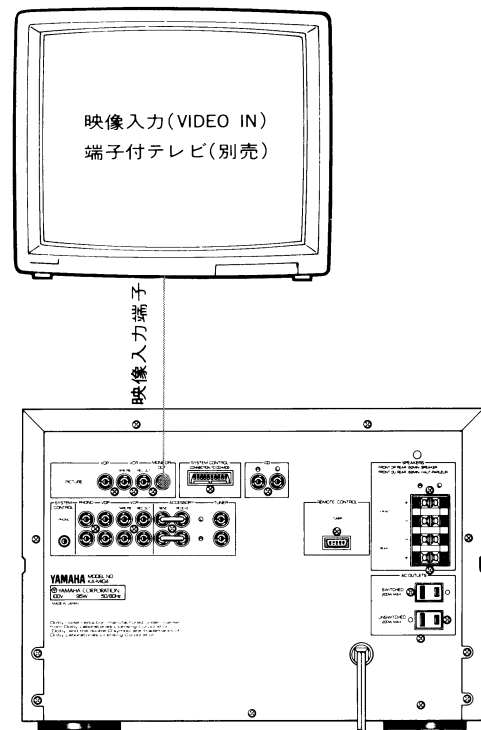
ビデオデッキの接続

- ①カセットアンブ部のVCR TAPE PB端子とビデオデッキ (別売) の音声出力 (AUDIO OUT)端子をステレオピンコード (別売)で接続します。
- ②カセットアンブ部のVCR REC OUT端子とビデオデッキ (別売) の音声入力 (AUDIO IN)端子をステレオピンコード (別売)で接続します。
- ③カセットアンブ部のPICTURE端子のVCR TAPE PB とビデオデッキ (別売) の映像出力 (VIDEO OUT)端子をモノラルピンコード (別売)で接続します。
- ④PICTURE端子のVCR REC OUTとビデオデッキ (別売)の映像入力 (VIDEO IN)端子をモノラルコード (別売)で接続します。



テレビの接続

本機は映像入力 (VIDEO IN) 端子付テレビ (別売) と接続することができます。カセットアンブ部のMONITOR OUT端子とテレビの映像入力 (VIDEO IN) 端子をモノラルピンコード (別売) で接続します。



電源コードの接続

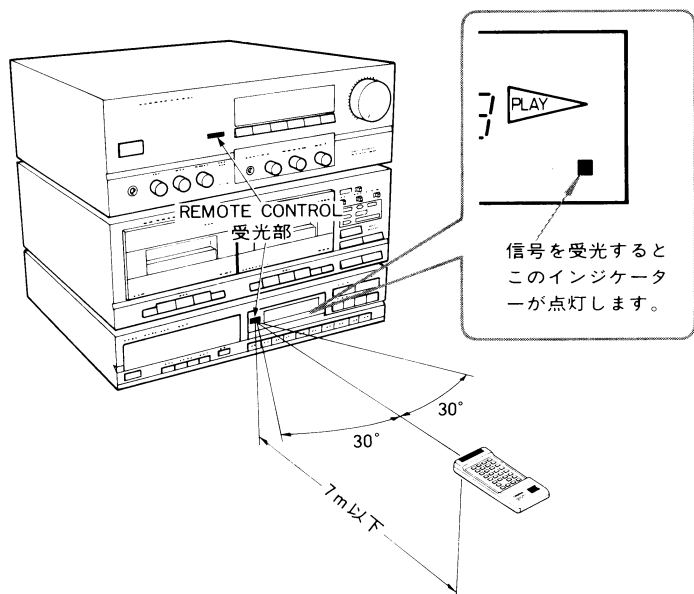
カセットアンブ部の電源プラグを家庭用電源コンセントに接続します。

※最初にカセットアンブ部の電源を入れた時には、カセットのメカニズムが必ず1回、初期化する動作 (ヘッドの上下運動) を行いません。カセットアンブ部の電源コンセントを一度外してから再度接続し、電源をONにした場合もこの初期化動作を1回行ないませんが、これらの動作は故障ではありません。

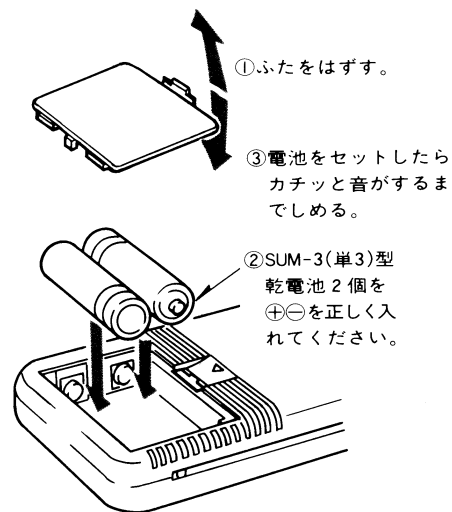
リモコンについて

付属のリモコン (RS-AV10) を使うと基本操作のほとんどを離れた場所から行なうことができます。

リモコンは、直進性に優れた赤外線を使っています。REMOTE CONTROL 受光部 (アンプ部と CD プレーヤー部の 2 ヶ所) に向けて、正しく操作してください。受光部を覆ったり、リモコンと受光部の間に障害物があると動作しません。また受光部に強い光が当たると、誤動作することがありますのでご注意ください。



電池の入れかた



電池の交換時期

操作できる距離が短くなってきたら、電池が消耗しています。早めに、2本とも新しい電池と交換してください。

ご注意

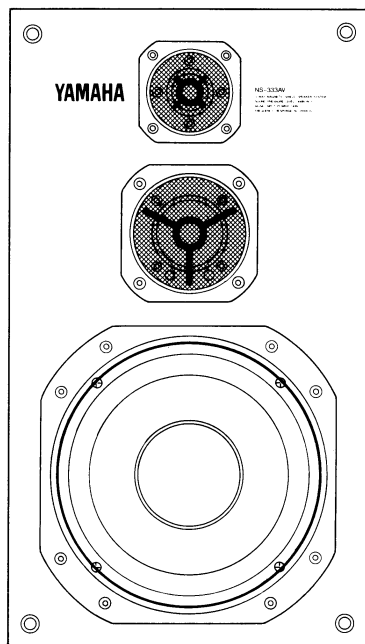
- プラス(⊕)とマイナス(⊖)の向きを、リモコンの電池ケースの表示通りに入れてください。
- 新しい電池と一度使用した電池を、混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 電池には、充電式とそうでないものがあります。電池の注意表示をよく見てください。
- 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出しておいてください。
- 分解や加熱をしたり、火の中に入れてたりしないでください。万一液漏れが起こったときは、電池ケースや電極についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

各部の名称

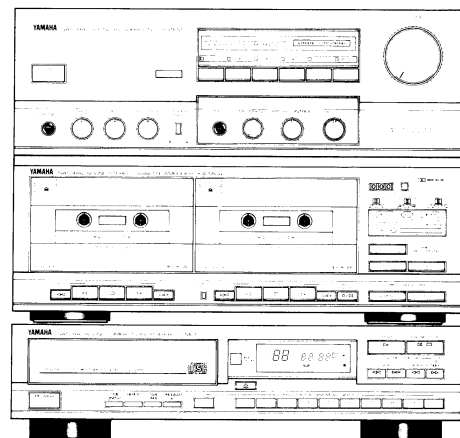
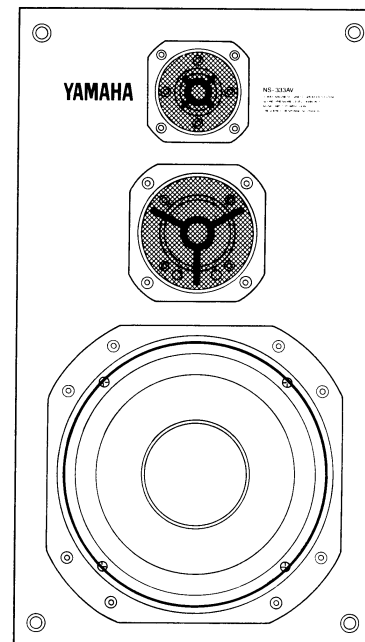
本機はカセットアンプ部(アンプ部とカセットデッキ部一体型)・CDプレーヤー部・スピーカーによって構成されています。

使用になる前に

スピーカー(左)
(NS-333AV)



スピーカー(右)
(NS-333AV)



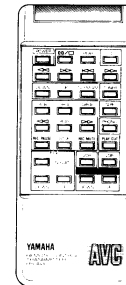
アンプ部

カセットアンプ部
(KA-M104)

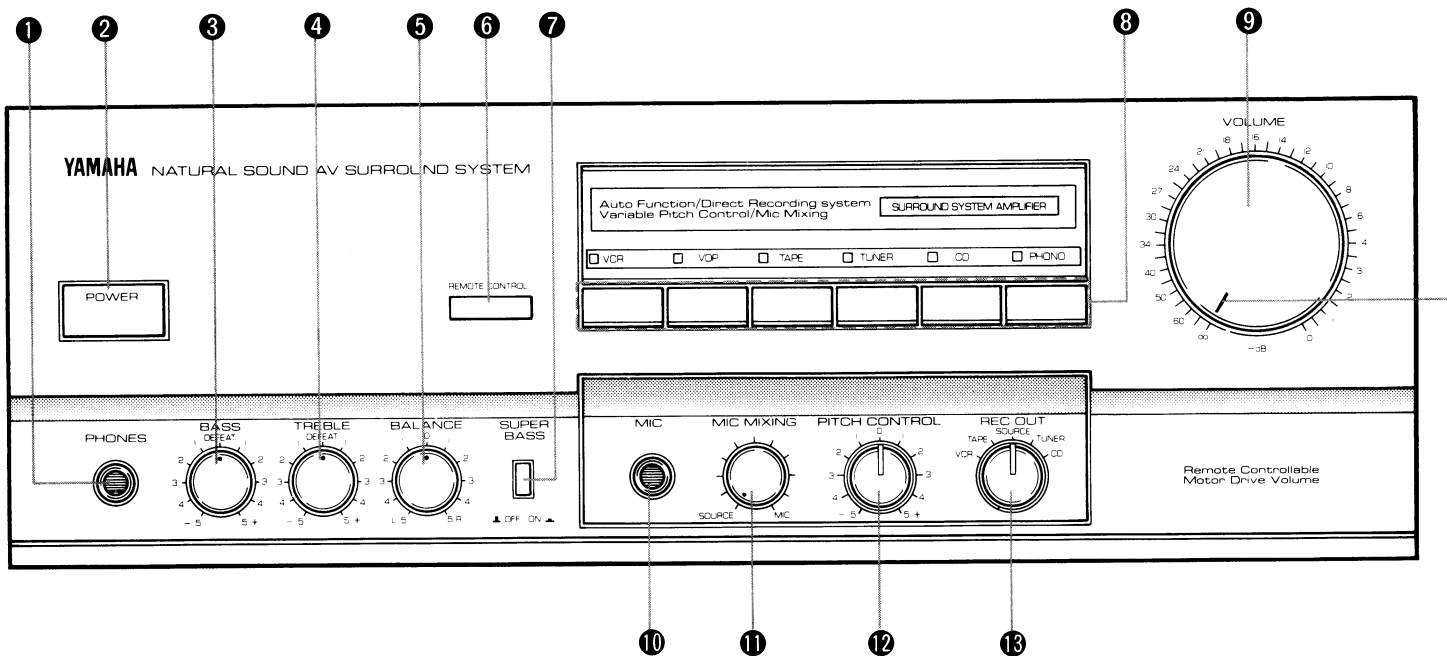
カセット
デッキ部

CDプレーヤー部
(CD-M105)

リモコン
(RS-AV10)



アンプ部



VOLUMEインジケータ

① PHONESジャック
ホーンズ

② POWERキー……………
システム電源ON/OFF
パワー

③ BASSツマミ
バス

④ TREBLEツマミ
トレブル

⑤ BALANCEツマミ
バランス

⑥ REMOTE CONTROL受光部
リモート コントロール

⑦ SUPER BASSスイッチ
スーパー バス

⑧ インプットセレクター
(VCRキー、VDPキー、TAPEキー、
TUNERキー、CDキー、PHONOキー)

⑨ VOLUMEツマミ
ボリューム

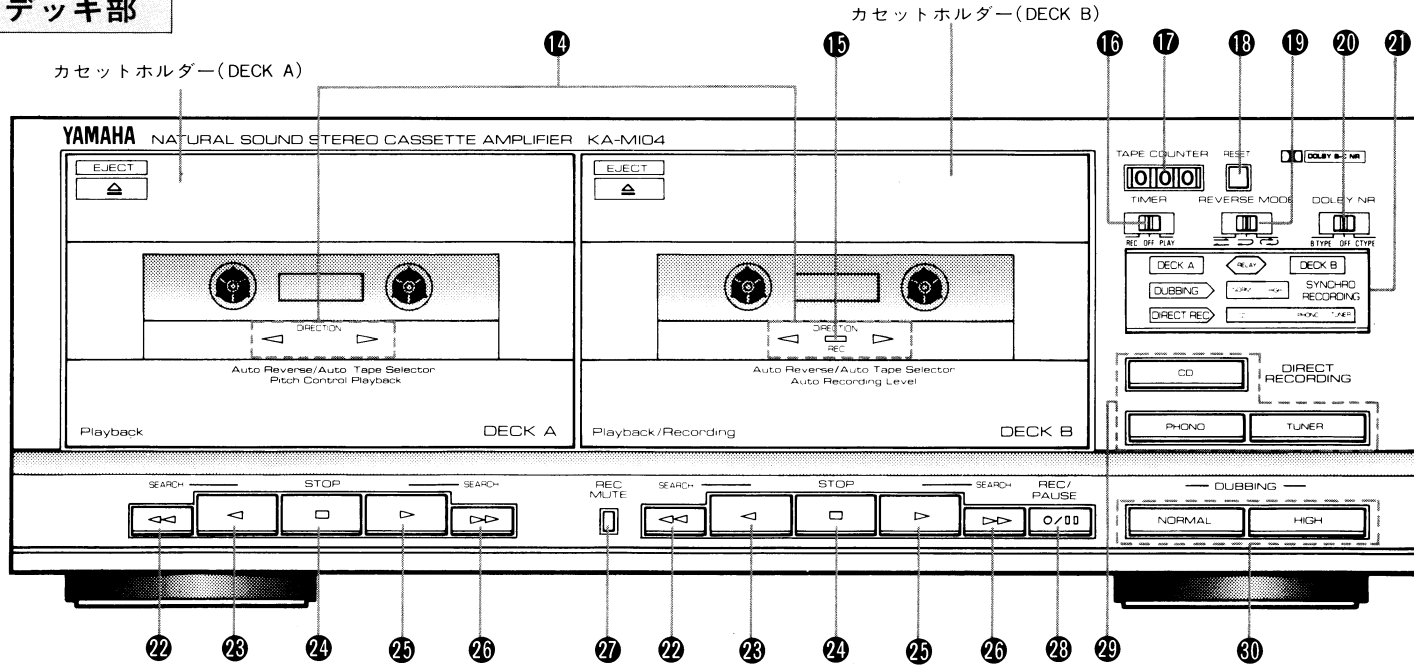
⑩ MICジャック
マイク

⑪ MIC MIXINGツマミ
マイク ミキシング

⑫ PITCH CONTROLツマミ
ピッチ コントロール

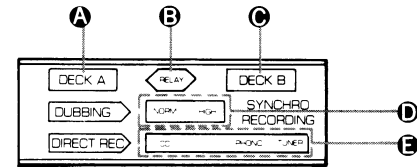
⑬ REC OUTセレクター
レック アウト

カセットデッキ部



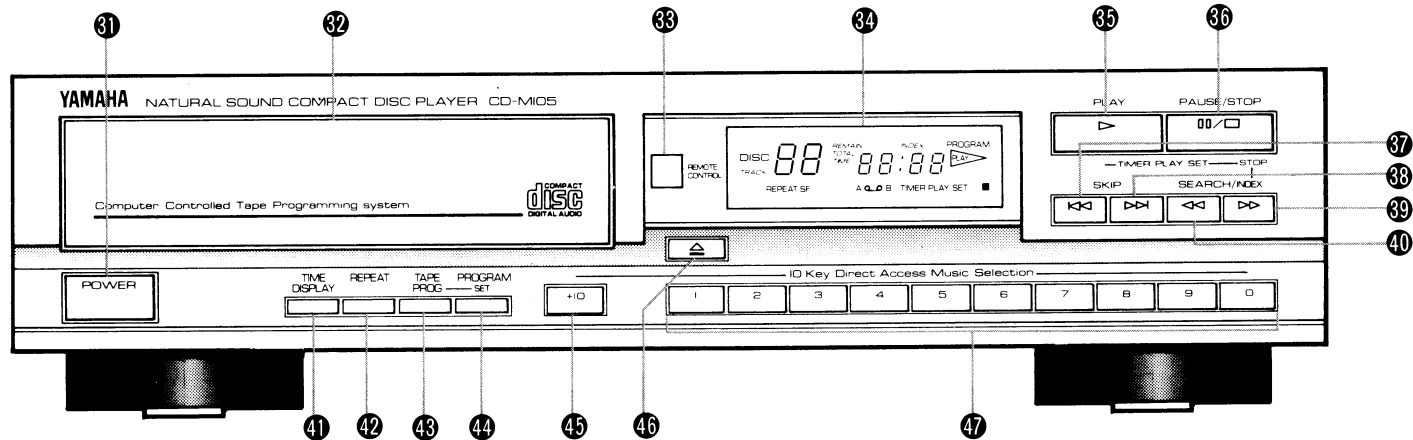
- ⑭ DIRECTIONインジケータ……… ディレクション
テープ 走行方向表示
- ⑮ RECインジケータ……… レック
- ⑯ TIMERスイッチ……… タイマー
- ⑰ TAPE COUNTER……… テープ カウンター
- ⑱ RESETキー……… リセット
- ⑲ REVERSE MODEセクター……… リバース モード
- ⑳ DOLBY NR スイッチ……… ドルビー ノイズリダクション
- ㉑ ディスプレイ
- ㉒ <<キー
- ㉓ 再生キー(<キー)……… ストップ
- ㉔ STOPキー
- ㉕ 再生キー(>キー)………
- ㉖ >>キー
- ㉗ REC MUTEキー……… レック ミュート
- ㉘ REC / PAUSEキー……… レック ポーズ
- ㉙ DIRECT RECORDINGキー……… ダイレクト レコーディング
- ㉚ DUBBINGキー……… ダビング

㉑ディスプレイ



- ① DECK A インジケータ……… デッキ
- ② RELAYインジケータ……… リレー
- ③ DECK B インジケータ……… デッキ
- ④ ダビングインジケータ……… ノーマル ハイ
: NORM, HIGH
- ⑤ ダイレクトレックインジケータ……… デッキ
: シーディー フォノ チューナー
: CD, PHONO, TUNER

CDVプレーヤー部



- ① POWERキー
ONの状態にしておくと、アンプ部のPOWERキーで電源のON/OFFができます。
- ② ディスクトレイ
- ③ REMOTE CONTROL 受光部
- ④ ディスプレイ
- ⑤ PLAYキー
- ⑥ PAUSE/STOPキー
- ⑦ <<キー (SKIP)
- ⑧ >>キー (SKIP)

- ⑨ >>キー (SEARCH/INDEX)
- ⑩ <<キー (SEARCH/INDEX)
- ⑪ TIME DISPLAYキー……………
- ⑫ REPEATキー
- ⑬ TAPE PROGキー
- ⑭ PROGRAMキー……………
- ⑮ +10キー
- ⑯ △キー (OPEN/CLOSE)
- ⑰ 数字キー

⑳ ディスプレイ

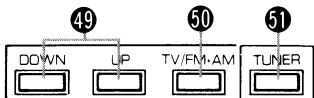
- ㉑ ディスクインジケータ……………
- ㉒ 曲番表示
- ㉓ 時間/インデックス表示
- ㉔ INDEXインジケータ
- ㉕ PROGRAMインジケータ
- ㉖ PLAYインジケータ
- ㉗ REPEATインジケータ
- ㉘ テーププログラムインジケータ
- ㉙ TIMER PLAY SETインジケータ
- ㉚ リモコンインジケータ

リモコン

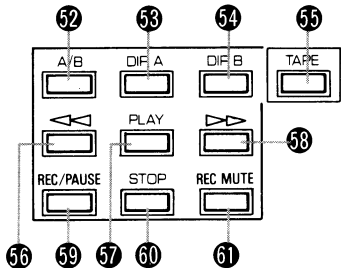
システム電源



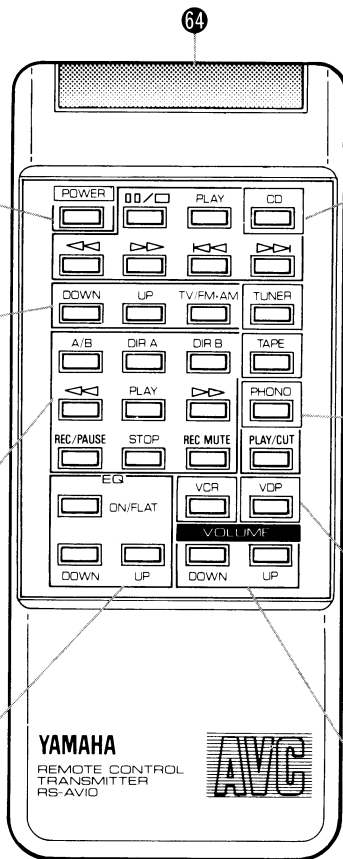
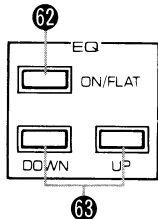
チューナー操作部



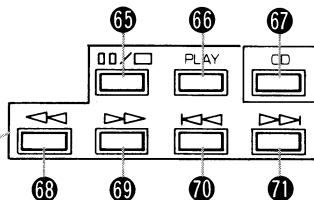
カセットデッキ操作部



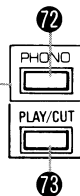
グラフィックイコライザー操作部



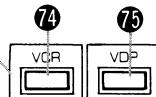
CDプレーヤー操作部



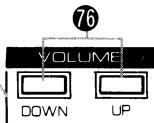
レコードプレーヤー操作部



ビデオ操作部



音量調節



システム電源

48 POWERキー

チューナー操作部

49 PRESETキー

50 TV/FM・AMキー

51 TUNERキー

※チューナー(別売)接続時のみはたります。

カセットデッキ操作部

52 DECK A/Bキー

53 DIRECTION DECK A

54 DIRECTION DECK B

55 TAPEキー

56 <<キー

57 PLAYキー

58 >>キー

59 REC/PAUSEキー

60 STOPキー

61 REC MUTEキー

62 EQ ON/FLATキー

63 EQ PRESETキー

64 リモコン送信部

グラフィックイコライザー操作部

62 EQ ON/FLATキー

63 EQ PRESETキー

64 リモコン送信部

CDプレーヤー操作部

65 PAUSE/STOPキー

66 PLAYキー

67 CDキー

68 <<キー (SEARCH)

69 >>キー (SEARCH)

70 <<<キー (SKIP)

71 >>>キー (SKIP)

レコードプレーヤー操作部

72 PHONOキー

73 PLAY/CUTキー

ビデオ操作部

74 VCRキー

75 VDPキー

音量調節

76 VOLUMEキー

(UP, DOWN)

音量・音質の調節

■音量の調節

音量はアンプ部のVOLUMEつまみで調節します。

- ①最初にアンプ部のMIC MIXINGつまみを左一杯(SOURCE側)に回します。
- ②VOLUMEつまみで音量を調節します。VOLUMEつまみは右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。
VOLUME インジケーターは通常緑色に点灯していますが、リモコンで音量調節を行なっている間は赤色に変わります。

■音質の調節

音質はアンプ部のBASつまみ、TREBLEつまみ、SUPER BASSスイッチによって調節できます。

BASSつまみ：低音域を調節するつまみで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど低音が強調され、左に回すと減衰されます。

TREBLEつまみ：高音域を調節するつまみで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど高音が強調され、左に回すと減衰されます。

SUPER BASSスイッチ：低音域(特に80Hz付近)が強調されます。

■バランスの調節

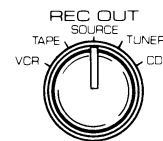
アンプ部のBALANCEつまみでフロントスピーカーの左右の音量バランスを調節できます。右(R側)に回すほど左の音が小さくなり、左(L側)に回すほど右の音が小さくなります。なお、リアスピーカーのバランス調節はできません。

ヘッドホンで聴くには

アンプ部のPHONESジャックにヘッドホン(別売)を接続すると、スピーカーから音を出さずにお楽しみいただけます。ヘッドホンの音量はアンプ部のVOLUMEつまみで調節します。

REC OUTセクターについて

REC OUTセクターはDECK Bで録音するソースとVCR REC OUT端子から送り出されるソースを選択するセクターです。



REC OUTセクター位置	録音するソース	録音する側
VCR	VCR	DECK B
TAPE	DECK A 又は、B	VCR
SOURCE (イコライザー録音する時に使用。)	インプットセクターで選択されたソース	DECK B, VCR (インプットセクターで選択されたソースを録音します。ACCESSORY端子にEQ-M555(別売)などを接続した場合、アクセサリ機器で調節された音が録音可能です。(スピーカーで聞く音と同じ音が録音できます。)
TUNER	TUNER	DECK B, VCR
CD	CD	DECK B, VCR

ダイレクト録音の場合はこのつまみの位置に関係なく、DIRECT RECORDINGキーで選択されたソースが録音されます。(27ページ「録音(ダイレクト録音・手動録音)」参照。)

オートファンクションについて

1. インプットセレクターを切り替えるだけでPHONO、CD、カセットデッキが自動的にスタートします。
2. 止めるときは、それぞれの機器のストップボタンを押してください。

※オートファンクション機能を使って再生中にインプットセレクターを切り替えると、再生中のソースは停止します。

※インプットセレクターがすでに“PHONO”または“CD”または“TAPE”になっている場合は、もう一度各々のボタンを押せば、自動的にスタートします。
ただし、リモコンで操作する場合は、各々のPLAYキーを押してください。

※PHONO(レコード)でオートファンクション機能を使うときは、レコードプレーヤーは、P-M555(別売)をお使いください。

サラウンド再生

通常のステレオ再生は前方からだけ立体的に音を聴くことを前提としています。しかし、コンサートホールや劇場では、音は前方から聴こえるだけでなく、高い天井や広い壁に反射してからだ全体を包み込むように聴こえます。これが臨場感や広がり感の要素となっており、これらの臨場感や広がり感を再現しようとするのがサラウンドです。

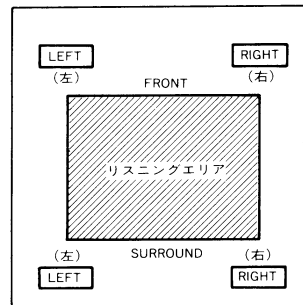
本システムにNS-E555(別売)などのリアスピーカーを2台追加すれば、アンプ部に内蔵のサラウンド回路により劇場で聴く迫力と臨場感やコンサートホールでの音場感に似た音をお楽しみいただけます。

※サラウンドはステレオソースの場合に効果が出ます。モノラルソースを再生するとリアスピーカーから音は出ません。

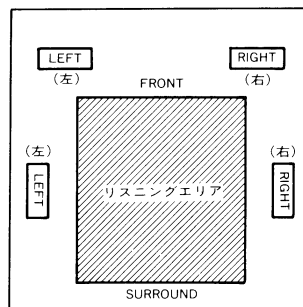
スピーカーシステムの設置例

サラウンド再生は、リアスピーカーの位置によって効果が変わります。下の設置例を参考にリアスピーカーの位置を変えてみてください。

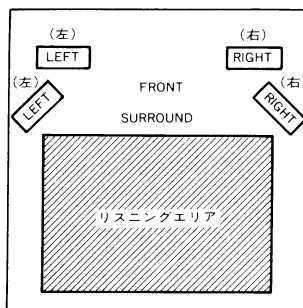
設置例1：コンサートホールや劇場にいるような臨場感



設置例2：目の前で演奏しているような音場



設置例3：音の拡がりが良いので、映画鑑賞に効果的



CD(コンパクトディスク)の取り扱い方

 マークのあるCDをお使いください。

ケースからの取り出し方

1. 右手でケースの両横側面を支え、左手で上下側面を持ってフタを開きます。



2. 左手の指先でケースのセンターホルダーを押しさえ、右手でCDを持ち上げます。

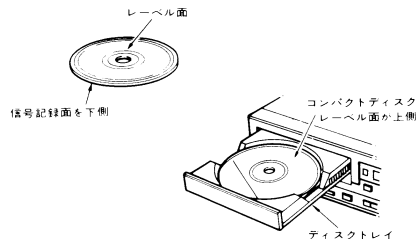


3. できるだけCDの縁を持つようにして、表面に触れないように扱ってください。



CDのセット

CDのセットは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。(CDの演奏は片面だけです。)市販のCD用スタビライザーなどの使用は、ディスクを傷つけるだけでなく故障の原因になることがありますのでご使用にならないでください。



- レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。



- 演奏が終わったCDは必ずケースに入れて保管してください。



- レコーダスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。CDはプラスチック製です。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。



- 曲げたりしないでください。

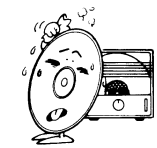


取り扱いの注意

- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布などで軽く内側中心から外側へ放射状に拭いてください。CDには、レコード盤のような音溝はありません。ほこりや汚れがついたら柔らかい布で軽く拭き取るだけで充分です。多少のほこりや汚れは、音質には全く影響ありません。



- 直射日光が当たる場所や、高温多湿な場所へ長時間置かないでください。CDを高温な場所に長時間放置すると変形などの原因となります。

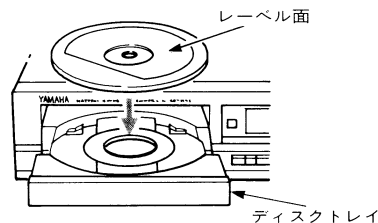


- 表面に傷をつけないよう、特にケースからの出し入れには注意してください。



演奏と基本操作

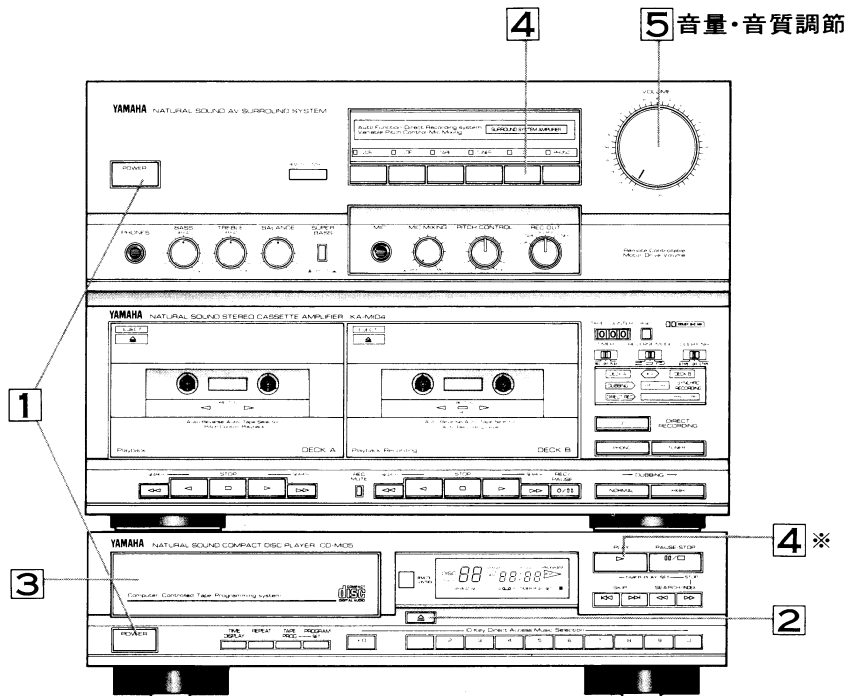
- ①システムとCDプレーヤー部のPOWERキーを押して電源を入れます。
- ②△キーを押してディスクトレイを開けます。
- ③CDをセットし、△キーを押してトレイを閉じます。



- ④アンプ部のCDキーを押して演奏をスタートします。
※アンプ部のインプットセクターがすでにCDを選択している場合は、PLAYキーを押して演奏をスタートします。
- ⑤音量・音質を調節します。15ページ「音量・音質の調節」参照。

ご注意

- CDプレーヤーの演奏は、PLAYキーで始めることもできますが、PLAYキーを押してもアンプ部のインプットセクターは切り替わりません。
- オートファンクションでCDプレーヤーを演奏中にアンプ部のインプットセクターを他のソースに切り替えるとCDの演奏は停止します。
- ディスクトレイは動作中に手で無理に開閉しないでください。
- 偏芯したディスクはCDプレーヤーの内部で異音を発することがありますので、ご使用にならないでください。
- ディスクトレイには不要物を入れないでください。
- ディスクトレイは使用しないときはゴミやホコリを防ぐため閉めておいてください。



■演奏の停止(ストップ)

PAUSE/STOPキーを2回押します。演奏がストップし、最初の曲の頭で待機します。アンプ部のインプットセレクターをCDから他のポジションに切り替えても停止します。

■演奏の一時停止(ポーズ)

PAUSE/STOPキーを1回押します。演奏しているところで一時停止します。再度演奏をはじめるときはPLAYキーを押します。PAUSE/STOPキーを1回押した状態でもう一度このキーを押すと、停止状態になります。

■ディスクを取り出すには

△キーを押します。このキーを押せば、いつでもディスクトレイが出てきます。ディスクを取り出したら、もう一度△キーを押してディスクトレイを閉めてください。

■早送り・早戻し

演奏中または一時停止中に◀◀キーを押して早戻し、▶▶キーを押して早送りができます。

●演奏中(音出しサーチ)

◀◀キーまたは▶▶キーを押し続けると最初の3秒間は低速、それ以上押し続けると高速の早送り・早戻しとなります。動作中は再生音が小さい音(1/4)で聴こえます。聴きたい位置で指を離すと、その位置から演奏を再開します。

●一時停止中

◀◀キーまたは▶▶キーを押し続けると高速の早送り・早戻しとなります。聴きたい位置で指を離すと、その位置で一時停止状態になります。

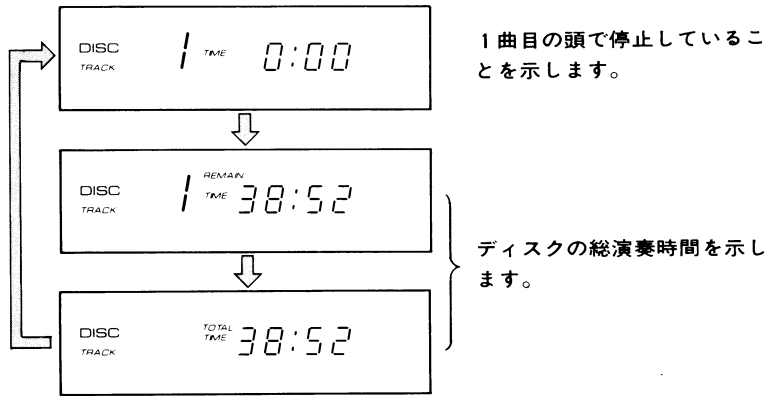
●停止中

◀◀キーまたは▶▶キーを押すと、インデックスサーチとなります。20ページの「インデックスサーチ」を参照してください。

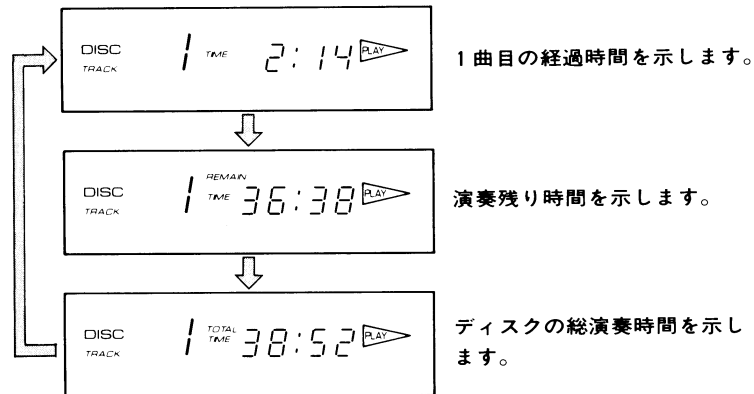
ディスプレイ表示について

TIME DISPLAYキーを押すとディスプレイの表示内容が次のように変わります。

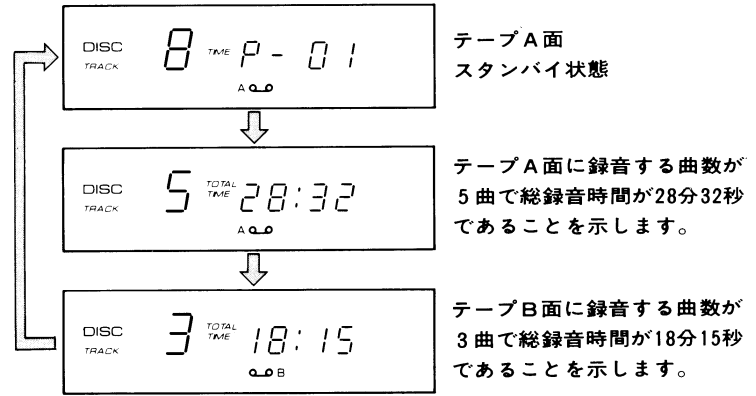
■停止しているとき



■演奏しているとき



■テーププログラム録音(29ページ参照)がセットされ、停止しているとき
テープA面とB面の総録音時間をチェックできます。



■テーププログラム録音を行なっているとき

テープA面録音中は、テープAプログラム面の経過時間と残量時間と総録音時間が順番に表示されます。またテープB面の場合も同様の表示となります。

■プログラムがセットされ、停止しているとき

プログラムをセットした状態で停止中は、プログラムされた曲の総演奏時間(オートスペースを含む)とプログラムスタンバイ表示が交互に表示されます。

例、2:00の曲、3:00の曲と5:00の曲の総演奏時間は、オートスペースの時間を加算するため10:08と表示されます。

$$\begin{array}{r}
 2:00 \\
 3:00 \\
 + 5:00 \\
 \hline
 10:00
 \end{array}
 \begin{array}{l}
 \text{オートスペース } 0:04 \\
 \text{オートスペース } 0:04 \\
 + \\
 0:08 = 10:08
 \end{array}$$

■プログラムがセットされ、PLAYしているとき

プログラムされた曲の総演奏時間と残量時間が交互に表示されます。

インデックスサーチ

■インデックスナンバーとは

クラシック音楽などのディスクで1曲がいくつもの楽章によって構成されている場合、各楽章に番号が付けられている場合があります、インデックスナンバーと呼ばれています。演奏するまえにディスクの解説書でお確かめください。

■インデックスサーチ

- ①PAUSE/STOPキーを2回押し、停止状態にします。
- ②曲番を<<キー(SKIP)または>>キー(SKIP)で選びます。選ばれた曲の頭で停止状態となります。
- ③INDEXキー(<<キーと>>キー)で希望するインデックスナンバーを表示させます。インデックスナンバーは>>キーを押すと増え、<<キーを押すと減ります。
- ④PLAYキーを押し演奏を始めます。指定したインデックスナンバーから演奏が始まります。
 - ※ディスクに記載されているインデックスより大きな数を指定した場合、最終インデックスが演奏されます。
 - ※インデックスサーチのときは曲の少し前から演奏することがあります。
 - ※インデックスの頭出しが終わると、インデックスサーチは解除されます。
 - ※インデックスの記録されていないディスクの場合、選曲した曲の頭から演奏が始まります。

ダイレクト選曲

聴きたい曲番を数字キーで指定すれば、ワンタッチで選曲することができます。

1. アンプ部のCDキーを押して、CDの演奏を始めます。
2. CDプレーヤー部の数字キーで聴きたい曲番を指定します。例えば5曲目を選曲したいときは、数字キーの“5”を押すと、選曲された曲番へ移り演奏を始めます。
 - ※数字キーの代わりに<<キーまたは>>キーで選曲することもできます。
 - ※数字キーでディスクに収録されている曲番より大きい曲番を指定した場合、自動的に最後の曲の演奏となります。
 - ※一時停止中に選曲した場合、指定された曲の頭で一時停止状態となります。
 - ※停止中に選曲した場合、選曲された曲番から演奏を始めます。

— +10キーについて —

2桁の曲番を選曲するとき+10キーを押して10の位を指定します。

例えば……………25曲目を聴くには

1. +10キーを2回押します。
2. 数字キーの“5”を押します。
 - ※+10キーを押し過ぎた場合、続けて押し続けければ0_に戻ります。

スキップ選曲

演奏中または一時停止中に前後の曲の頭出しが簡単に行なえます。

■次の曲に進めるには

>>キーを押します。演奏中に>>キーを押すと次の曲の頭へ進み演奏を始めます。

■前の曲に戻すには

<<キーを2回押します。演奏中に<<キーを1回押しすと現在演奏中の曲の頭へ戻り、2回押しすと前の曲の頭へ戻り演奏を始めます。

※>>キーを押すごとに次の曲の頭に移ります。押し続けると連続的に変化し、最終曲番で止まります。

※<<キーを押すごとに前の曲の頭に戻ります。(演奏中はその曲の頭へまず戻ります。)押し続けると連続的に変化し、1曲目の頭で止まります。

プログラム演奏

聴きたい曲だけ好きな順番にならびかえて最大24曲まで演奏できます。プログラムの入力には数字キーを押すだけで行なえるダイレクトプログラム機能を採用しています。

例えば……………2曲目、6曲目、5曲目の順番でプログラムするとき

- ①PAUSE/STOPキーを2回押し、停止状態にします。
- ②PROGRAMキーを押します。曲番の入力待ち状態になります。
- ③数字キーの“2”を押します。P-01に2曲目が設定されます。
- ④数字キーの“6”を押します。P-02に6曲目が設定されます。
- ⑤数字キーの“5”を押します。P-03に5曲目に設定されます。
 - これでプログラムのセットは完了です。
- ⑥PLAYキーを押して、プログラム演奏を始めます。

■プログラム演奏中一時停止するには

PAUSE/STOPキーを1回押します。再度演奏を始めるときは、PLAYキーを押してください。

■プログラム演奏中停止するには

PAUSE/STOPキーを2回押します。

■プログラム演奏中の頭出し操作

◀◀キーまたは▶▶キーを押すと、プログラムされている曲の頭出しを行なえます。
※一時停止状態でも頭出しを行なうことができます。

■プログラム演奏中の早送り、早戻し操作

◀◀キーまたは▶▶キーを押すとプログラムされている曲に関係なく早送り・早戻しができます。プログラムしていない曲に早送りまたは早戻しで移動したときは、その曲の演奏が終わると、プログラム演奏に戻ります。

■プログラム内容のチェックと変更および追加

ストップ状態で▶▶キーを押すたびに“P-01”から順番にプログラム内容を表示させることができます。プログラムを進めるときは▶▶キー、戻すときは◀◀キーを使います。さらに数字キーによってそのプログラムを変更および追加することができます。

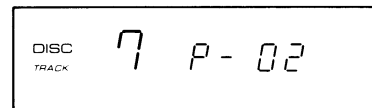
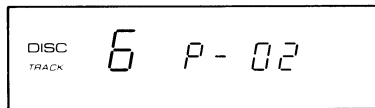
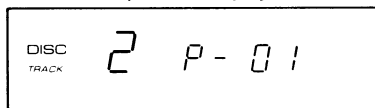
※プログラムされている曲数を減らすときは、プログラムを一旦解除し、改めて1曲目からプログラムしなおしてください。

例. 表のようにP-02を7曲目に変更し、P-04を追加する場合

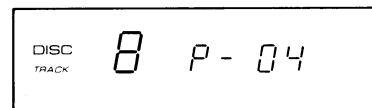
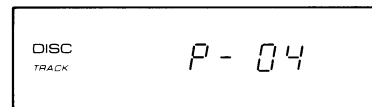
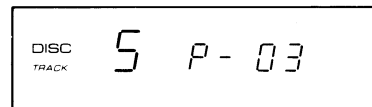
プログラムNo.	P-01	P-02	P-03		プログラムNo.	P-01	P-02	P-03	P-04
曲番	2	6	5	⇒	曲番	2	7	5	8

キー操作

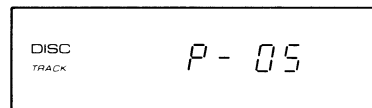
ディスプレイ表示



↓ 0.5秒後



↓ 0.5秒後



これでセット完了です。

■プログラムの解除

△キーを押してディスクトレイを開くと、プログラムは全て解除されます。ディスクを入れたまま電源を切ってもプログラムはメモリーされているため、タイマーをセットしておくとも電源ONと同時にプログラムした曲でタイマープレー機能(22ページ)がはたらき、CDのプログラム演奏がスタートします。また電源のON/OFFは別売オーディオタイマーでも可能です。

ご注意

- インデックスのプログラム演奏はできません。
- プログラムの総演奏時間が99分59秒を越えたときのTOTAL TIME表示は100分を引いた残りの時間を表示します。
- 24曲以上入っているディスクを使用して、TRACK NO.が24以上の曲番をプログラムしたときはTOTAL TIMEは表示されません。

リピート演奏

ディスクの全曲または1曲だけをくり返し演奏することができます。

■ 1曲リピート：REPEAT S (Single)

同じ曲をくり返し演奏します。

REPEATキーを押し、ディスプレイにREPEAT Sを点灯させます。この状態で演奏を始めると、1曲リピートがはたらきます。また演奏中にこの状態にしても1曲リピートははたらきます。

※プログラム演奏中も1曲リピートははたらきますが、テーププログラム中は、できません。

■ 全曲リピート：REPEAT F (Full)

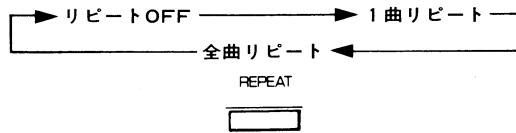
ディスクの全曲をくり返し演奏します。

REPEATキーを押し、ディスプレイにREPEAT Fを点灯させます。この状態で演奏を始めれば全曲リピートがはたらきます。また演奏中にこの状態にしても全曲リピートははたらきます。

※プログラムした曲にも全曲リピートははたらきますが、テーププログラム中は、できません。

● リピートモードの切り替えについて

REPEATキーを押すたびにリピート機能が切り替わります。



ご注意

- インデックスのリピート演奏はできません。
- 電源を切るとリピート演奏は解除されます。

■ リピート演奏を解除するには

REPEATキーを押して、ディスプレイの表示(REPEAT SまたはREPEAT F)を消します。

タイマープレー機能

電源がONになったとき、CDプレーヤーを自動スタートさせる機能です。あらかじめプログラムをしておくと、電源ONと同時にプログラム演奏を自動スタートすることができます。またこの機能は、別売オーディオタイマーを使ってもはたらきます。

①アンプ部のインプットセレクターのCDが選択されている状態にします。

②タイマープレーしたいCDをセットします。

プログラム演奏するときは、この状態で聴きたい曲をプログラムします。

③PAUSE/STOPキーを押しながらPLAYキーを押します。

ディスプレイのTIMER PLAY SETインジケーターが点灯します。

④電源をOFFにします。

電源のOFFは次の3種類の 방법으로、いずれの場合もタイマープレー機能ははたらきます。

- CDプレーヤー部のPOWERキーを押す。(CDのみ電源OFF)
- アンプ部のPOWERキーを押す。(システムの電源OFF)
- 別売オーディオタイマーをセットし、オーディオタイマー側で電源をOFFにする。

⑤電源をONにします。(オーディオタイマーの場合は自動的にON)

タイマープレー機能がはたらき、自動的にCDの演奏が始まります。

※音量・音質はあらかじめ調節しておいてください。15ページ「音量・音質の調節」参照。

■ タイマープレーを解除するには

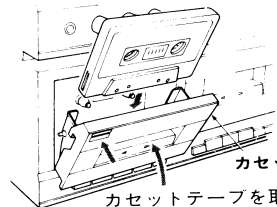
CDプレーヤーがストップ状態のとき、PAUSE/STOPキーを押しながら、PLAYキーを押します。TIMER PLAY SETインジケーターが消えて、タイマープレーが解除されます。

録音・再生を始める前に

■カセットテープの装着

- ①カセットホルダーのEJECT表示部を押し、カセットホルダーを開きます。
- ②カセットテープのテープ面を下にしてホルダー内側のテープガイドにそって装着します。
- ③カセットホルダーの上部中央を押しして閉めます。

テープ面を下にして入れます。



カセットホルダー

カセットテープを取り出すときはSTOPキーを押して動作を停止させてから、カセットホルダーのEJECT表示部を押し、ホルダーを開いて取り出します。

ご注意

- カセットデッキを使用しないときはホルダーを閉めておいてください。
- カセットテープの動作中にカセットホルダーを押さないでください。故障の原因になります。

■カセットテープについて

市販のカセットテープには多種多様の製品がありますが、その構造については規格が統一されており、各メーカーのものが共通に使用できます。

ご注意

規格外のテープを使用すると、テープ走行不良などの不具合が生じる場合がありますので、ご使用にならないでください。

■カセットテープの録音時間による分類

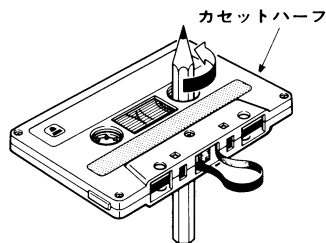
カセットテープの型名は、両面往復時間を“分”単位で表示してあります。

種類	録音再生時間		テープの長さ(m)
	片道(分)	往復(分)	
C-46	23	46	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135

※C-120テープは、テープが薄いため音質面でも音楽録音には適当ではありません。できるだけ左記のテープをご使用ください。

■テープのたるみを直す

テープがとび出したり、たるんだままご使用になりますと、キャプスタンやピンチローラーにテープがからみついたりする原因となります。こんな場合には、カセットハーフのリール軸に鉛筆などを差込んで巻き取り、テープのたるみを直してからご使用ください。



■カセットテープの保管は

カセットケースに入れ、直射日光(高温)、湿気および磁気のあるところ(テレビやスピーカーの近く)を避けて保管してください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音内容を消してしまいます。

■リバースモードについて

カセットデッキ部はテープの走行方向を自動的に反転するオートリバース機能を持っています。オートリバースには下表のように3つのモードがあり、REVERSE MODEセレクターで選択します。

モード	状態	再生のとき	録音のとき(DECK B)	早送りのとき
←→		片面の再生が終わるとテープエンドで停止します。	片面の録音が終わるとテープエンドで停止します。	テープエンドで停止します。
↶↷		片面の再生が終わるとテープエンドで反転し、もう片面を再生した後テープエンドで停止します。	片面の録音が終わるとテープエンドで反転し、もう片面を録音した後テープエンドで停止します。	テープエンドで反転し、再生となります。
↻		テープエンドで反転を繰り返して再生し続けます。(8回まで反転します。)	両面に録音し終わるとテープエンドで停止します。	

■ピッチコントロール機能

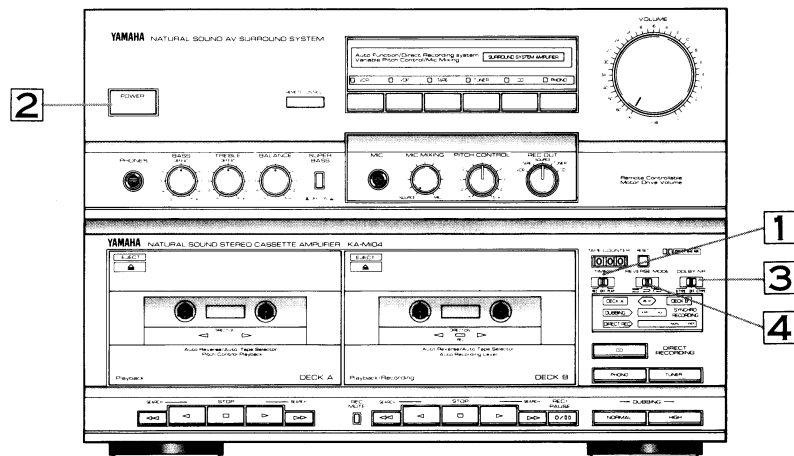
カセットアンプ部のPITCH CONTROLツマミを回すことにより、テープの再生速度を変えることができます。マイクミキシングなどで音程を合わせるのに便利です。

- ピッチコントロールはDECK Aのみはたらきます。
- 通常はツマミをセンターの位置にセットしてください。
- 音程は+側、-側それぞれ半音以上変化します。
- DECK AからDECK Bへテープダビング(テープコピー)するときは、PITCH CONTROLツマミをセンターの位置にセットしておかないと、正常なスピードでダビングできません。
- PITCH CONTROLツマミを+側にしてテープ走行中に電源を切ると、再生ヘッドが停止位置まで下がらず、カセットテープが取り出さない場合があります。このような場合は、再度電源を入れ、カセットテープを取り出してください。

テープ再生の準備

テープの再生を始めるまえに、次の手順で準備を行ないます。

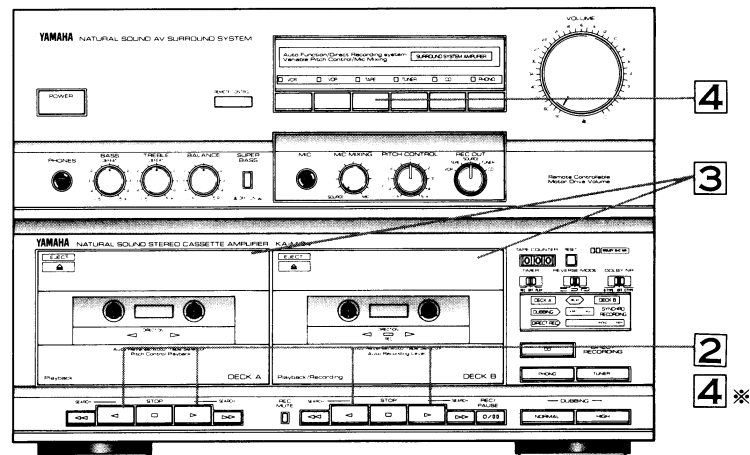
- 1 カセットデッキ部のTIMERスイッチをOFFにします。
- 2 POWERキーを押し、電源を入れます。
- 3 DOLBY NRスイッチを再生するテープに合わせます。35ページ「ドルビーNRについて」参照。
- 4 リバースモードを選択します。
(23ページ「リバースモードについて」参照。リレー再生の場合は26ページ参照。)



テープ再生

- 1 左記の「テープ再生の準備」を行ないます。
- 2 テープの走行方向を決めます。再生はDECK A、DECK Bどちらでもできます。
- 3 DECK AまたはDECK Bへテープを装着します。
- 4 TAPEキーを押すとファンクションが切り替わり、再生が始まります。
※アンプ部のインプットセレクターがすでにTAPEになっている場合は、再生キー(◀キーまたは▶キー)を押して再生を始めます。▶キーを押すと左から右(フォワード)、◀キーを押すと右から左(リバース)方向でテープ再生が始まります。
- 5 音量・音質を調節します。15ページ「音量・音質の調節」参照。

1 再生の準備



5 音量・音質調節

- テープを止めるには
再生している側のSTOPキーを押してテープを止めます。
- TAPE COUNTER/RESETキーについて
TAPE COUNTERはDECK Bのテープ走行量を表示します。この表示はRESETキーを押すと“000”になります。
- テープ再生の優先順位
DECK AとDECK Bの両方の再生音を同時に聴くことはできません。片方のDECKを再生中にもう片方のDECKの再生を始めると、最初に再生していたDECKは停止し、後に再生を始めた側の再生音となります。

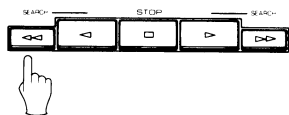
テープを聴く

曲の頭出し

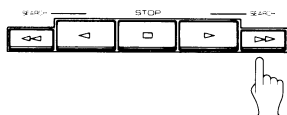
再生中に次の曲または現在聴いている曲の頭をワンタッチで探すことができます。
▷(フォワード)方向の再生中は▷▷キーで次の曲、◁◁キーで現在聴いている曲や前の曲の頭出しとなり、◁(リバース)方向の再生中は逆の動作になります。

■もう一度同じ曲を聴くには

〔▷方向再生中〕



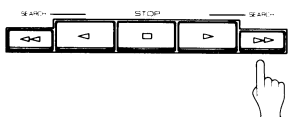
〔◁方向再生中〕



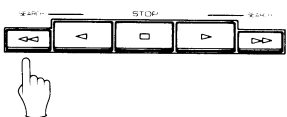
現在聴いている曲の頭に戻り、再生が始まります。曲の始めの部分(約10秒以内)で頭出し操作を行なうと、前の曲の頭出しとなります。

■次の曲を聴くには

〔▷方向再生中〕



〔◁方向再生中〕



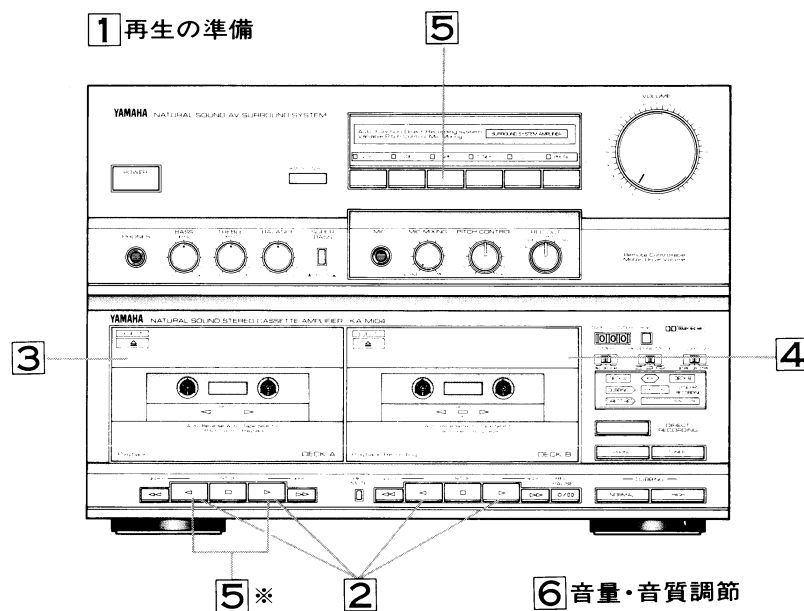
次の曲の頭まで早送りし、再生が始まります。

※曲の頭出しは、曲と曲の間の無録音部(約4秒以上)を検出して行ないます。したがって曲間が極端に短い場合や、曲間に雑音などが入っている場合は誤動作することがありますが、これは故障ではありません。

リレー再生

DECK AとDECK Bを交互に再生できます。長時間再生するときに便利です。


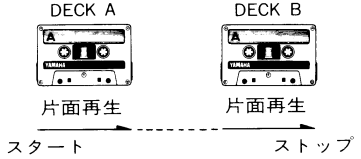

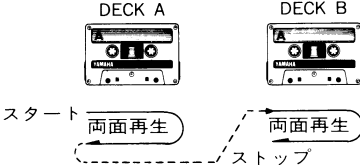

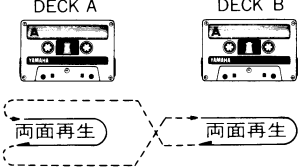
- ①24ページの「テープ再生の準備」を行ないます。(リバースモードについては26ページをご覧ください。)
- ②DECK A、DECK Bのテープ走行方向を決めます。
- ③先に再生するテープをDECK Aにセットします。
- ④後に再生するテープをDECK Bにセットします。
- ⑤TAPEキーを押すとファンクションが切り替わり、DECK Aインジケーターが点灯し、DECK Aからリレー再生が始まります。
※アンプのインプットセレクターがすでにTAPEになっている場合、DECK Aの再生キー(◁キーまたは▷キー)を押して再生を始めます。▷キーを押すと、左から右(フォワード)、◁キーを押すと右から左(リバース)方向でリレー再生が始まります。
- ⑥音量・音質を調節します。15ページ「音量・音質の調整」参照。



録音の準備

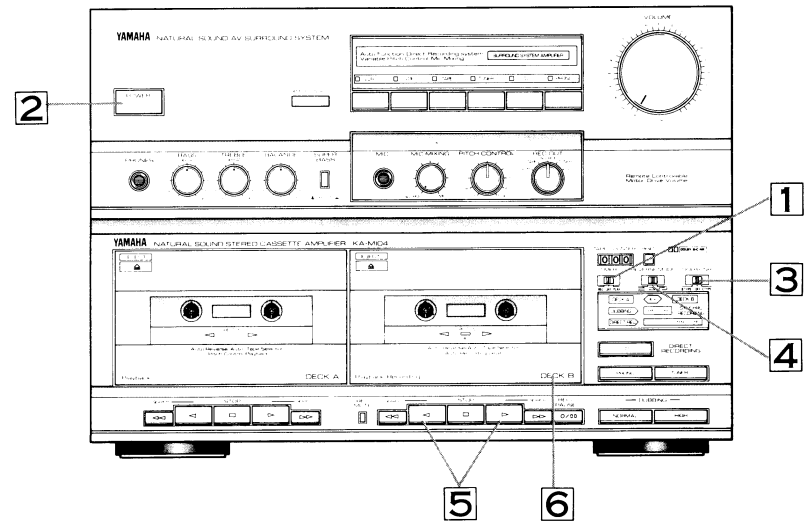
■リバースモードとリレー再生について

リレー再生では、REVERSE MODEセレクターの位置によって動作が異なります。下表を参考にREVERSE MODEセレクターをセットしてください。

リバースモード	リレー再生動作
	 <p>DECK Aの片面の再生が終わるとDECK Bに移ります。 ※再生キーによって指定された面だけが再生されます。 ※DECK Bからスタートした場合は、DECK Bの再生が終わると停止状態になり、DECK Aには移りません。</p>
	 <p>DECK A両面の再生が終わるとDECK Bに移ります。 ※DECK A、DECK Bともに、再生キーによって指定された面から再生がスタートします。ただしDECK Bを「◁」方向からスタートした場合はDECK Bの再生が終わると停止状態になりDECK Aには移りません。</p>
	 <p>DECK Aの両面、DECK Bの両面をくり返して再生します。(8回まで) ※2本とも90分テープを使用し、DECK Aからリレー再生を始めると、24時間のロングプレイが可能となります。 ※DECK Bからスタートした場合は、DECK Aが7回、DECK Bが8回のくり返しとなります。 ※「◁」方向からスタートした場合、最初の片面の再生が終わったところで1回と数えられます。</p>

テープの録音を始めるまえに、次の手順で準備を行ないます。

- ①カセットデッキ部のTIMERスイッチをOFFにします。
- ②POWERキーを押し、電源を入れます。
- ③DOLBY NRスイッチを選択します。35ページ「ドルビーNRについて」参照。
- ④リバースモードを選択します。23ページ「リバースモードについて」参照。
- ⑤DECK Bのテープ走行方向を決めます。録音はDECK Bで行ないます。
- ⑥DECK Bへテープを装着します。

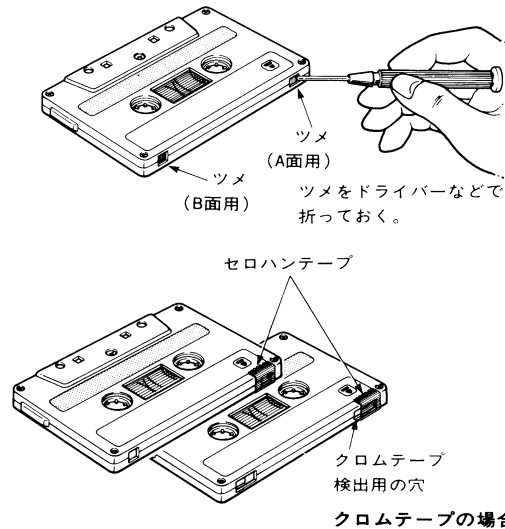


※録音レベルは、自動録音レベル調節(ALC)回路によって、自動的に調節されます。録音中にアンプのVOLUMEツマミを動かしても録音には影響しません。

録音(ダイレクト録音・手動録音)

録音内容の保存

カセットテープには、大切な録音を誤って消去しないように誤消去防止用の穴があります。録音後、この穴のツメをドライバーなどで取り去ると、録音内容をいつまでも保存することができます。またツメを折ったテープに再び録音したい場合には、セロハンテープなどで穴をふさいでください。



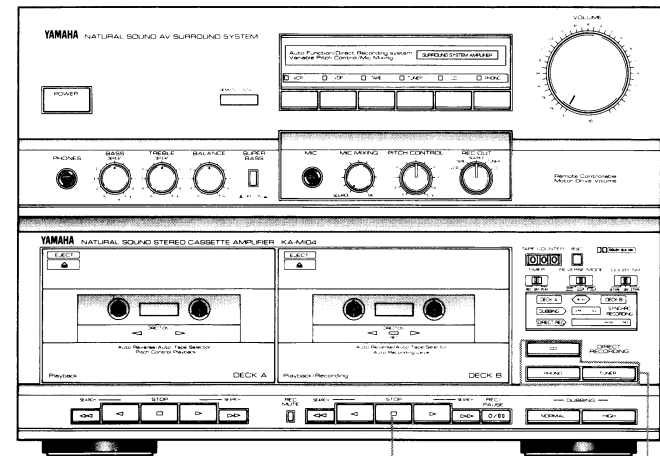
ご注意

あなたが本機で録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上の権利者に無断で使用できません。

本システムによる録音方法はダイレクト録音と手動録音の2通りがあります。ダイレクト録音はワンタッチでソース(CDプレーヤー・チューナー・レコードプレーヤー)の演奏と録音を同時にスタートする機能です。手動録音はソースの演奏と録音のスタートを手動で行なうものです。またダイレクト録音の場合は、インプットセレクターやレックアウトセレクターがどの位置にあっても優先的に録音することができます。さらにCDダビングのために、多彩な機能を搭載しています。

〔ダイレクト録音〕

- 1 録音の準備
- 2 録音するソースの再生(または受信)準備



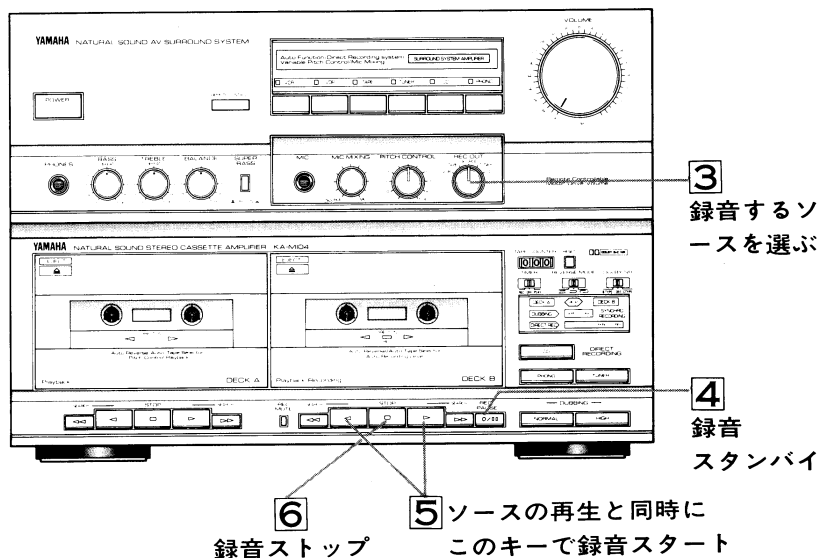
4
ダイレクト録音ストップ

3
ダイレクト録音スタート
CD：CDの録音
PHONO：レコードの録音
TUNER：放送の録音

〔手動録音〕

1 録音の準備

2 録音するソースの再生(または受信)準備



■CDの録音(基本的な方法)

〔ダイレクト録音〕

- 1 26ページの「録音の準備」を行ないます。
- 2 録音したいディスクをCDプレーヤーにセットします。
- 3 カセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのCDキーを押します。アンプ部のインプットセレクターが自動的にCDに切り替わりCDの演奏とデッキの録音が同時にスタートします。
※ダイレクト録音は、インプットセレクターやREC OUTセレクターの位置に関係なく行なうことができますので録音中に他のソースを自由に聴くことができます。
- 4 録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPキーを2回押します。

〔手動録音〕

- 1 26ページの「録音の準備」を行ないます。
- 2 録音したいディスクをCDプレーヤーにセットし、録音したい曲の頭で一時停止させます。
- 3 アンプ部REC OUTセレクターを「SOURCE」または「CD」にセットします。(15ページ「REC OUTセレクターについて」参照。)
- 4 カセットデッキ部のREC/PAUSEキーを押します。RECインジケーターが点灯し録音スタンバイ状態となります。
- 5 CDプレーヤー部のPLAYキーとカセットデッキ部の▷キーまたは◁キーを同時に押し、CDの演奏と録音をスタートさせます。
- 6 録音を止めるときはDECK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPキーを2回押します。

手動録音時の注意

- REC OUTセレクターが「SOURCE」の場合、録音中にアンプ部のインプットセレクターを押したり、ACCESSORY端子に接続されたEQ-M555(別売)などの機器を操作すると、録音中のソースが切り替わってしまったり、周波数特性が変わったりしますので、十分ご注意ください。



■CDの編集録音(2モードCDダビング)

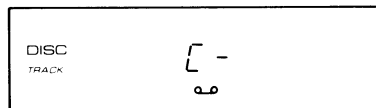
【お好みの曲だけ録音するには】

- ①26ページの「録音の準備」を行ないます。
- ②録音したいディスクをCDプレーヤーにセットします。
- ③CDプレーヤー部で録音したい曲をプログラムします。(20ページ「プログラム演奏」参照)
- ④カセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのCDキーを押します。アンプ部のインプットセレクターが自動的にCDに切り替わりCDのプログラム演奏とデッキの録音が同時にスタートします。
- ⑤録音を止めるときはDECK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPキーを2回押します。

【テーププログラム録音】






テープ両面の録音時間をCDプレーヤーに入力することによりCDプレーヤー内部のマイコンが、テープA面、B面に収まるようにランダムプログラムを行ない、テープ録音する機能です。

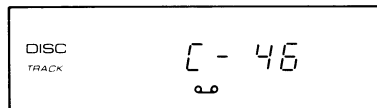
- ①26ページの「録音の準備」を行ないます。このとき、REVERSE MODEセレクターは  または  の位置にセットします。
- ②録音したいディスクをCDプレーヤーにセットします。
- ③CDプレーヤー部のTAPE PROGキーを押し、テーププログラムモードに入ります。



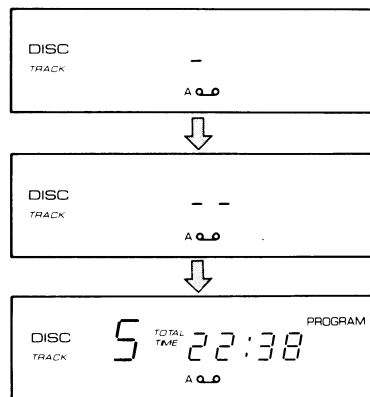
※**Q.0**の表示はテーププログラムモードであることを示します。

- ④テープ両面の録音時間を数字キーでセットします。

例. C-46(46分テープ)をセットするには、     と押します。

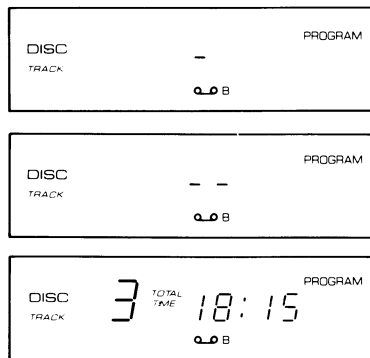


- ⑤CDプレーヤー部のPROGRAMキーを押します。テープのA面に録音する曲が自動的にランダムプログラムされます。



A面がセットされると、「PROGRAM」表示が点灯します。
この場合、プログラム曲数が5曲でA面の総演奏時間が22分38秒であることを示しています。
なお、この時間は、曲間のスペース(約4秒)を含んでいます。

- ⑥もう一度PROGRAMキーを押します。テープのB面に録音される残りの曲が自動的にランダムプログラムされます。



この場合、プログラム曲数が3曲でB面の総演奏時間が18分15秒であることを示しています。

- ⑦カセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのCDキーを押し、録音を始めます。

⑧テープ反転後、CDプレーヤー(一時停止状態で待機しています。)のPLAYキーを押して、テープB面の録音を開始します。

⑨録音を止めるときはDECK BのSTOPキーを押し、CDプレーヤー部のPAUSE/STOPを2回押します。

※テーププログラム終了後、▶▶キーまたは◀◀キーを押すことにより、プログラムされた内容を確認することができます。

※テープA面に録音する曲が全て演奏し終るとCDプレーヤーはテープがB面に反転するまで一時停止状態で待機します。

※テープB面のプログラムも全て録音し終わるとCDプレーヤーは停止状態となり、テープはテープエンドまで録音を続けます。(無音のまま)

ご注意

- テープ両面の録音時間は最大99分までセットできます。
- 24曲以上のディスクでは23曲以内のランダムプログラムとなります。
- テープのA面に1曲もはまらない場合は、次のように表示されますのでテープ両面の録音時間をセットしなおしてください。



Err

- CDテーププログラムのA面中にテープが反転した場合は、CDはそのままプログラムA面が終るまで演奏し続け、終了後、一時停止状態となります。必ずテープの長さに合わせて、CDテーププログラムを行なってください。

■TVまたはFM/AM放送の録音

※別売チューナーを接続して操作してください。

〔ダイレクト録音〕

①26ページの「録音の準備」を行ないます。

②録音したい番組の放送局を受信します。

③番組を聴きながら、録音をスタートしたいところでカセットデッキ部のDIRECT RECORDINGキーのTUNERキーを押します。録音がスタートします。
※ダイレクト録音は、インプットセレクターやREC OUTセレクターの位置に関係なく行なうことができますので、録音中に他のソースを自由に聴くことができます。

④録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押してください。

〔手動録音〕

①26ページの「録音の準備」を行ないます。

②録音したい番組の放送局を受信します。

③アンプ部のREC OUTセレクターを“SOURCE”または“TUNER”にセットします。
(15ページ「REC OUTセレクターについて」参照。)

④カセットデッキ部のREC/PAUSEキーを押します。RECインジケータが点灯し録音スタンバイ状態となります。

⑤番組を聴きながら録音をスタートしたいところでカセットデッキ部の▶キーまたは◀キーを押し、録音をスタートします。

⑥録音を止めるときは、DECK BのSTOPキーを押します。

手動録音時の注意

- REC OUTセレクターが“SOURCE”の場合、録音中にアンプ部のインプットセレクターを押したり、ACCESSORY端子に接続されたEQ-M555(別売)などの機器を操作すると、録音中のソースが切り替わってしまったり、周波数特性が変わってしまいますので、十分ご注意ください。

その他の機器の操作

■レコードの演奏

1. 本システムおよびレコードプレーヤー(別売)の電源を入れます。
2. レコードプレーヤー(別売)の取扱説明書を参照してレコード盤をセットします。
3. アンプ部のPHONOキーを押します。P-M555の場合レコードの演奏が自動的にスタートします。その他のレコードプレーヤーを使用される場合は、レコードプレーヤーの取扱説明書に従ってレコード演奏を始めます。
4. 音量・音質を調節します。15ページ「音量・音質の調節」参照。

■ビデオディスクの再生

1. 本システムおよびビデオディスクプレーヤー(別売)の電源を入れます。
2. アンプ部のVDPキーを押します。
3. ビデオディスクプレーヤー(別売)の取扱説明書を参照してビデオディスクの再生をスタートします。
4. 音量・音質を調節します。15ページ「音量・音質の調節」参照。

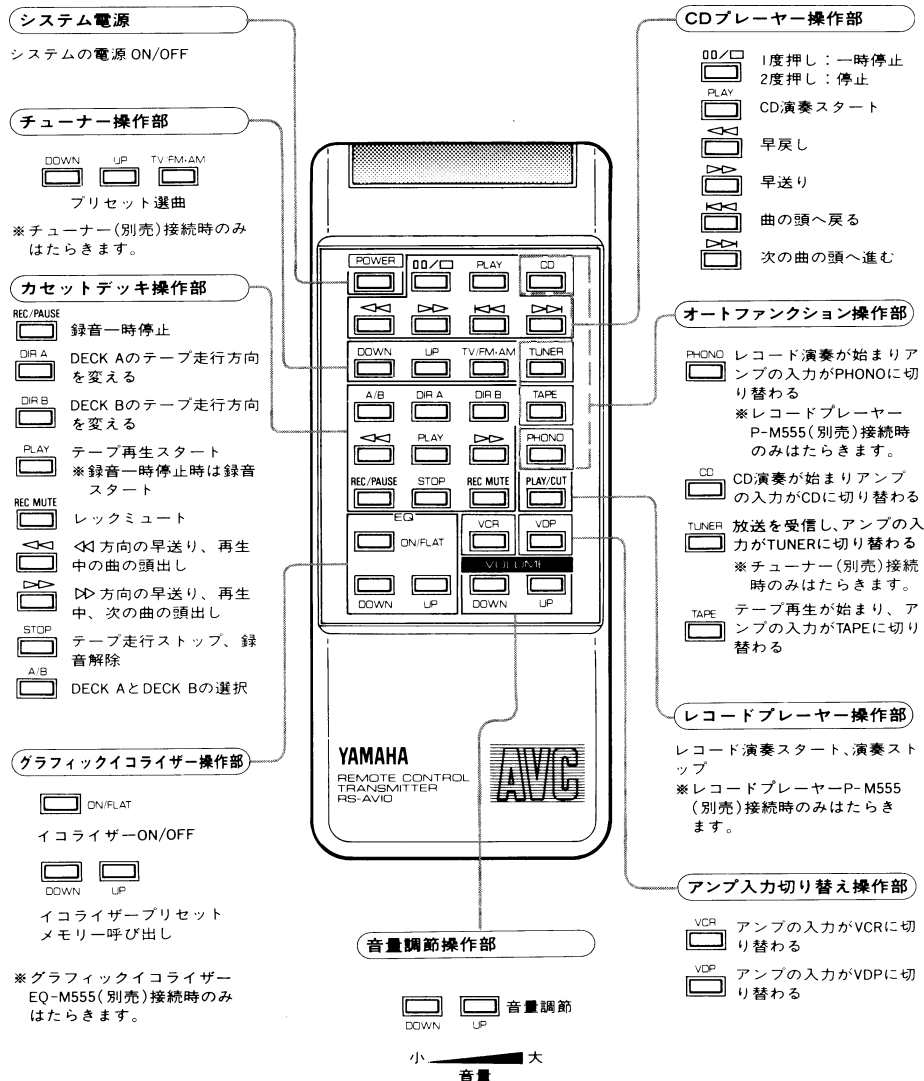
■ビデオテープの再生

1. 本システムおよびビデオデッキ(別売)の電源を入れます。
2. アンプ部のVCRキーを押します。
3. ビデオデッキ(別売)の取扱説明書を参照してビデオテープの再生をスタートします。
4. 音量・音質を調節します。15ページ「音量・音質の調節」参照。

ご注意

インプットセレクターが“VCR”以外にセットされている場合は、VDPの映像が優先して再生されます。

リモコンの操作



タイマー録音・再生

別売のオーディオタイマーを使うと、外出中でも聴きたいFM放送などを逃さず録音することができます。(タイマー録音)

また、お好みの音楽を起床時間にセットしておく、さわやかなお目覚めとなります。(タイマー再生)

■タイマー録音のしかた

- ①カセットアンプ部の電源プラグをオーディオタイマーの連動コンセントに接続します。
- ②カセットアンプ部および別売チューナーを操作し、録音したい放送局を選局します。
- ③26ページの「録音の準備」を行ないます。
- ④カセットアンプ部のTIMERスイッチをRECにします。
- ⑤オーディオタイマーを操作し、録音の開始時刻、終了時刻などをセットします。(詳しくはオーディオタイマーの取扱説明書をご覧ください。)このとき、各機器の電源が切れたことを確認してください。

以上でオーディオタイマーでセットした時刻がくると、自動的に録音が始まります。

※不用意に音が出ないように音量は絞った状態(VOLUMEつまみを左いっぱいにした状態)にしておきます。

※タイマー録音が終わったら、必ずTIMERスイッチをOFFにしておいてください。

■タイマー再生のしかた

- ①カセットアンプ部の電源プラグをオーディオタイマーの連動コンセントに接続します。
- ②24ページ「テープ再生」を参考に一度再生を行ない、タイマー再生時の音量・音質を調節しておきます。
調節が終わったら、STOPキーを押して再生を止めます。
- ③カセットアンプ部のTIMERスイッチをPLAYにします。
- ④オーディオタイマーを操作し、再生の開始時刻、終了時刻などをセットします。(詳しくはオーディオタイマーの取扱説明書をご覧ください。)このとき、各機器の電源が切れたことを確認してください。

以上でオーディオタイマーでセットした時刻がくると、自動的に再生が始まります。

※DECK A、DECK B両方にテープが入っている場合はDECK A側から再生が始まり、DECK A、DECK Bのリレー再生になります。

※タイマー録音が終わったら、必ずTIMERスイッチをOFFにしておいてください。

マイクミキシング/ミキシング録音

■マイクミキシング

MICジャックにマイク(別売)を接続すると、マイクからの音とソースの音を混合してスピーカーから出すことができます。これをマイクミキシングと呼び、カラオケで唄うときなどに使います。次の手順に従って操作してください。

- ①アンプ部のVOLUMEつまみを左一杯に回します。
- ②アンプ部のMICジャックにマイクを接続します。マイクにスイッチがある場合は“ON”にしてください。
- ③お好みのソースを演奏し、VOLUMEつまみで音量を調節します。
- ④マイクに向かって歌いながらマイクとソースの音量バランスをMIC MIXINGつまみで調節します。MIC MIXINGつまみを右(MIC側)へ回すとマイクの音が大きくなり、ソースの音が小さくなります。左(SOURCE側)へ回すとソースの音が大きくなりマイクの音が小さくなります。
※DECK Aでマイクミキシングするときは、PITCH CONTROLつまみで再生スピードを調節することができます。つまみを右へ回すと音程が高くなり、左へ回すと低くなります。

■ミキシング録音

- ①DECK Bにテープを装着し、REC/PAUSEキーを押します。
- ②上記の要領でマイクミキシングを行ないMIC MIXINGつまみでミキシングバランスを調節します。
- ③REC OUTセレクターを“SOURCE”の位置にします。
※REC OUTセレクターをSOURCE以外の位置にするとREC OUTセレクターで選ばれたソースが録音され、ミキシング録音はできません。
- ④曲の始まりにタイミングを合わせてDECK Bの▷キーまたは◁キーを押して録音を始め、そのままマイクに向かって唄えば、ミキシング録音になります。ミキシング録音が終わったら、STOPキーを押してテープを止めてください。

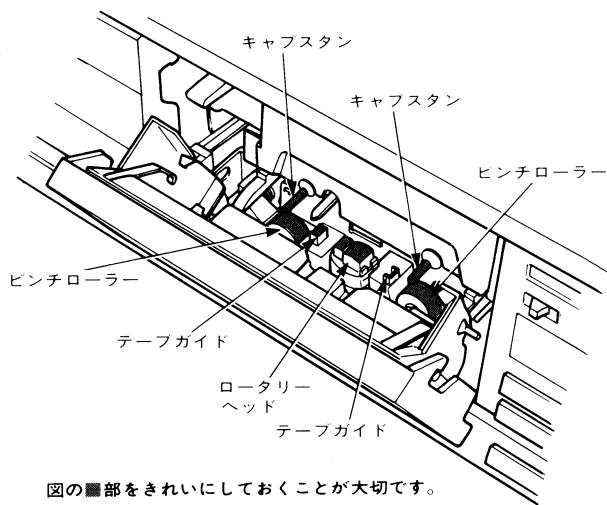
ご注意

- マイクは標準プラグ(直径6.3mm)で、インピーダンス400Ω～3kΩ、感度-74dB前後のものをお使いください。
- マイク音はステレオになりません。
(左右のスピーカーの中央から音が聞こえます。)
- キーンと言うハウリングが起きたときはVOLUMEつまみで音量を下げるか、マイクをスピーカーから遠ざけます。
- 感度の高いマイクや無指向性マイクを使うと、ハウリングを起こしやすくなります。
- DECK AでマイクミキシングしたものをDECK Bへ録音することはできません。

カセットデッキ部のお手入れ

カセットデッキを長時間ご使用になっていますと、キャフスタン、ピンチローラー及びヘッドの汚れや帯磁が原因で、音がかすれたり、ノイズが入ったり、音がふるえたりしてきます。市販の綿棒、クリーニング液やクリーニングテープ、ヘッドイレーサーをご使用になり、定期的にクリーニングや消磁をしてください。クリーニングはおよそ10時間ごとに、消磁は20～30時間を目安に行なってください。また特に大切な録音をするときや、古いテープを使った後もクリーニングしておきましょう。

- ヘッドのクリーニングの際は、ヘッドに無理な力を加えないようにご注意ください。また、消磁の際は、ヘッドイレーサーの説明書を充分参照してください。



図の■部をきれいにしておくことが大切です。

ドルビーNRについて

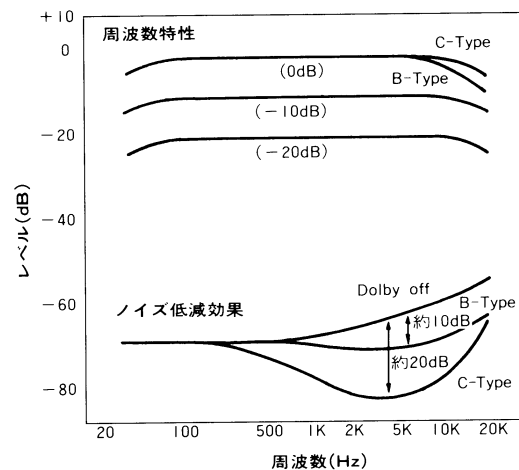
カセットテープの場合、聴感上、高域でのテープのヒスノイズが主な雑音源になります。このヒスノイズを減らすため、本機では、従来のドルビーB NRに加え、ドルビーC NRを採用し、ドルビーB NRとドルビーC NRを切り換えて使用することができます。

ドルビーB NRでは、高域周波数において約10dBの改善効果がありますが、ドルビーC NRでは、人間の耳が最も敏感な帯域(2kHz～8kHz)で約20dBの改善効果が得られ、更に、10kHz以上の帯域では、テープの高域MOL(最大録音レベル)特性を改善することができます。

下図は、ドルビーB NRとドルビーC NRで録音・再生したときの周波数特性とノイズ低減効果を表わしたものです。

ドルビーC NRの場合、ドルビーB NRに比べノイズはさらに低減され、約20dBの改善効果があることがわかります。

なお、ドルビーNRシステムは、録音・再生両過程を通じてノイズを低減しますので、再生時にはDOLBY NRスイッチは必ず録音時と同じ状態にしてください。



DOLBY B-C NR

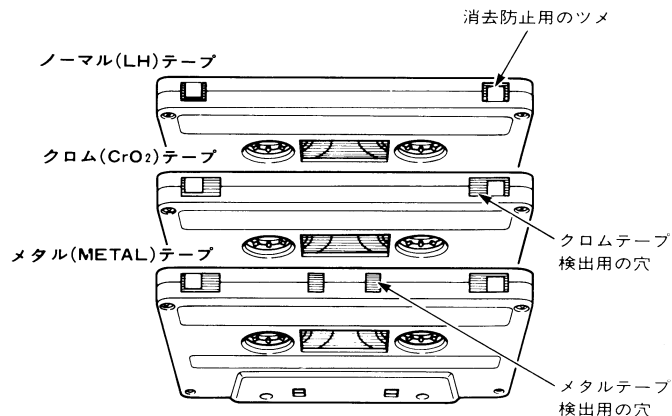
ドルビーノイズリダクションはドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

「ドルビー」及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの登録商標です。

オートテープセレクトターについて

■カセットテープの材質による種類とカセットハーフの構造

カセットテープは磁性材質によって特性が異なります。そこで、そのテープに合ったバイアス量とイコライザー特性を選択する必要があります。本機はオートテープセレクトター機能を内蔵していますので、カセットテープを装着するだけでそのテープに最適なバイアス電流とイコライザー特性が自動的に切り換わり、それぞれのテープの性能を発揮させることができます。テープの種類を検出には図のような検出用の穴を利用してしています。



※カセットハーフに検出用の穴がない(旧タイプのメタルテープなど)テープではオートテープセレクトターは、はたらきません。

※旧タイプのメタルテープ(検出穴のないもの)を使用しますと、CrO₂ポジションで録音・再生されます。テープによっては消去されない(前の音が消え残る)場合や音が重む場合があります。

著作権について

あなたが、本機で録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC・音権協)

〒105 東京都港区西新橋1丁目7-13
TEL.03(502)6551

東京支部

TEL.03(562)4455
〒104 東京都中央区銀座1丁目15-6
共同ビル銀座1丁目3F

北陸支部

TEL.0762(21)3602
〒920 金沢市香林坊2-3-25
金沢日産生命ビル

九州支部

TEL.092(441)2285
〒812 福岡市博多区博多駅前2-1-1
福岡朝日ビル

中国支部

TEL.082(249)6362
〒730 広島市中区大手町1-2-1
広島東京海上ビル2F

四国支部

TEL.0878(21)9191
〒760 高松市寿町2丁目2番10号
住友生命高松寿町ビル3F

大阪支部

TEL.06(244)0351
〒542 大阪市南区南船場4-3-11
豊田ビル

北海道支部

TEL.011(221)5088
〒060 札幌市中央区北1条西3丁目
大和銀行札幌ビル

東北支部

TEL.022(264)2266
〒980 仙台市中央2-1-7
仙台三和ビル

大宮支部

TEL.0486(43)5461
〒330 大宮市宮町2丁目51
大宮蓮見ビル

本部

TEL.03(502)6551
〒105 東京都港区西新橋1丁目7-13

横浜支部

TEL.045(662)6551
〒231 横浜市中区日本大通り60
朝日生命横浜ビル

静岡支部

TEL.0542(54)2621
〒420 静岡市追手町9-22
読売静岡ビル

中部支部

TEL.052(586)1155
〒450 名古屋市中村区名駅4-27-20
名古屋三井ビル南館

京都支部

TEL.075(251)0134
〒600 京都市下京区四条通烏丸東入ル長刀鉾町8
京都三井ビル

故障かなと思ったら

本システムをご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本システムの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電機機器製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。本システムは、CDプレーヤー部の単体では動作致しませんので必ずシステムを組み合わせた状態で修理をご依頼ください。

	症 状	原 因	処 置	
アンブ部	フロントスピーカーの片方が鳴らない。	アンブ部のBALANCEツマミがLかRのどちらかにずれている。 スピーカーコードの接続が不完全。	BALANCEツマミを正しく調節しなおしてください。 スピーカーコードを正しく接続しなおしてください。	
	フロントスピーカーから音が出ない。	アンブ部のMIC MIXINGツマミがMIC側にセットされている。 アンブ部のVOLUMEツマミが左一杯に絞られている。 コード類の接続が確実に行なわれていない。	MIC MIXINGツマミを左(SOURCE側)に回してください。 VOLUMEツマミを回して音量を調節してください。 コード類を正しく接続しなおしてください。	
	リアスピーカーから音が出ない。	入力ソースがモノラル。 コード類の接続が確実に行なわれていない。	モノラルソースはサラウンド再生できません。 コード類を正しく接続しなおしてください。	
	低音のない不自然な再生音で音像が安定しない。	アンブ部とスピーカーの位相(+、-)が合っていない。	アンブ部とスピーカーの位相(+、-)を合わせて接続してください。	
	レコード再生時、“ワーン”という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーの設置場所が近すぎてハウリングを起こしている。	レコードプレーヤーとスピーカーを離して設置してください。 また、部屋のコーナーにレコードプレーヤーを置くとハウリングが起きやすいので避けてください。	
	CD/DPプレーヤー部	ディスクを入れても演奏できない。	ディスクが裏返しにセットされている。 ディスクがひどく汚れている。	ディスクのレーベル面を上にしてセットしてください。 ディスクをクリーニングしてください。
音が出ない。		アンブ部のインプットセレクターが正しくセットされていない。	インプットセレクターのCDキーを押してください。	
音かと切れる。(同じ場所とで切れる。)		ディスクが汚れている。	ディスクをクリーニングしてください。	
ノイズが入る。		CDコネクタの接続が不完全。	CDコネクタを正しく接続しなおしてください。	
録音・再生時にテープが回らない。 録音できない。		テープがたるんでいたため、ピンチローラーにまきついている。 カセットテープのツメが折れている。 ヘッドが汚れている。	テープを使用するまえにテープのたるみを鉛筆などで取ってください。 カセットテープを交換するか、ツメの部分にセロハンテープなどでカバーしてください。 ヘッドをクリーニングしてください。	
カセットデッキ部	音がかすれる。音かと切れる。	ヘッドが汚れている。 ヘッドが帯磁している。 古いテープを使っている。	ヘッドをクリーニングしてください。 ヘッドイレーサーでヘッドを消磁してください。 良質なテープと交換してください。	
	再生音の音質が悪い。	ノイズリダクションのセットが違っている。	録音したときと同じノイズリダクションを選んでください。	
	左右のバランスが悪い。	ヘッドが汚れている。 ヘッドが帯磁している。 古いテープを使用している。	ヘッドをクリーニングしてください。 ヘッドイレーサーでヘッドを消磁してください。 良質なテープと交換してください。	
	録音または再生の途中でストップしてしまう。	テープがゆるんだり飛び出している。 テープに折れや傷がある。 エンドレステープを再生している。	鉛筆などでカセットハーフのリール軸を回して、テープを張りなおしてください。 新品テープと交換してください。 エンドレステープは再生しないでください。	
	選曲できない。	無録音部分が短い。 曲の途中で録音レベルが非常に短いところがある。 エアチェックなどで会話が録音されている。	頭出し機能は、無録音部分が4秒以上ないとたつきません。	
	リモコン	リモコンで操作できない。	電池が消耗している。 リモコン操作の距離、角度が適切でない。	電池を交換してください。 7m以内、30°以内で操作してください。
		リモコンを操作するとテレビが誤動作する。	ワイヤレスリモコン付のテレビのそばで使用している。	テレビと本システムを離してセットするかテレビのリモコン受光部におおいをしてください。

参考仕様

KA-M104

■アンプ部

実用最大出力	43W × 2 (EIAJ 6Ω)
全高調波歪率	0.02% (1kHz、10W/6Ω 出力時)
トーンコントロール	BASS (50Hz) ±12dB
	TREBLE (20kHz) ±12dB
	SUPER BASS (90Hz) +9dB
周波数特性	5Hz～20kHz ±0.5dB
S/N比	PHONO 74dB
	CD/VDP 90dB

■デッキ部

トラック方式	4トラック、2チャンネルステレオ
形式	録りリバース (DECK B)
	再生リバース (DECK A)
ヘッド	DECK A パーマロイ再生ヘッド×1
	DECK B パーマロイ録音・再生ヘッド×1 フェライト消去ヘッド×1
ワウ・フラッター	0.08% (WRMS)
周波数特性	メタル 35Hz～16kHz ±3dB
	クロム 35Hz～15kHz ±3dB
	ノーマル 35Hz～14kHz ±3dB
S/N比	ドルビー NR B ON 65dB
	ドルビー NR C ON 72dB
	ドルビー NR OFF 55dB

■総合

電源	AC100V 50 60Hz
消費電力	95W (電気用品取締法に基づく)
最大外形寸法	340(幅) × 234.5(高さ) × 310(奥行)mm
重量	7.9kg

CD-M105

全高調波歪率	0.008%
周波数特性	10Hz～20kHz ±0.5dB
S/N比	100dB
ダイナミックレンジ	90dB
出力電圧	2.0V
電源	CDコネクタによりKA-M104から供給

最大外形寸法	340(幅) × 85(高さ) × 320(奥行)mm
重量	3.5kg

NS-333AV

型式	3ウェイ密閉方式 防磁型
スピーカーユニット	ウーファー JA2012 23cmコーン型
	ツイーター JA0662 6cmコーン型
	スーパーツイーター JA0596 1.5cmドーム型
許容入力	50W
ミュージック許容入力	100W
出力音圧レベル	90dB/W/m
再生周波数帯域	60Hz～25kHz
インピーダンス	6Ω
クロスオーバー周波数	MID 6kHz(6dB/oct.)
	HIGH 10kHz(6dB/oct.)
最大外形寸法	270(幅) × 480(高さ) × 215(奥行)mm
重量	4.5kg (1台) × 2

付属品

- リモコン (RS-AV10) × 1
- 単3乾電池 (SUM-3) × 2
- CD専用ピンコード × 1
- CDコネクタ (10ピン) × 1
- リモコンケーブル (5ピン) × 1

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。



これは電子機械工業会「音のエチケット」
キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

(昭和62年10月1日 現在)

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また**製品の品名、製造番号**などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

北海道	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL(011)781-3621
仙台	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321
浜松	〒435 浜松市上西町911番地 ヤマハ宮竹工場内 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-4 ヤマハセンター内 北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉台通ビル4F 東北営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 首都圏営業所 TEL(03)255-5691 神田営業所 TEL(03)255-6767 北関東営業所 TEL(03)255-1825 東京営業所 TEL(03)255-2302
千葉	〒260 千葉市千葉港2-1 千葉コミュニティセンター1F 千葉営業所 TEL(0472)47-6622
神奈川	〒211 川崎市中原区木月1184 神奈川営業所 TEL(044)434-4871
浜松	〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ツ池センター内 浜松営業所 TEL(0534)71-1207
名古屋	〒464 名古屋市中区千種区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 中部営業所 TEL(052)782-7551 名古屋営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 関西営業所 TEL(06)647-6411 日本橋営業所 TEL(06)647-6411 大阪営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いざぎん広島ビル内 中四国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 ホームエレクトロニクス事業本部 お客様ご相談センター TEL(0534)60-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

ホームエレクトロニクス事業本部

国内営業部 TEL.(0534)60-3421
管理部サービス技術課 TEL.(0534)60-3405

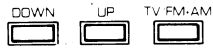
住所および電話番号は変更になる場合があります。

リモコン操作チャート

システム電源

システムの電源 ON/OFF

チューナー操作部



プリセット選曲

※チューナー(別売)接続時のみはたらきます。

カセットデッキ操作部

REC/PAUSE

録音一時停止

DIR A

DECK Aのテープ走行方向を変える

DIR B

DECK Bのテープ走行方向を変える

PLAY

テープ再生スタート
※録音一時停止時は録音スタート

REC MUTE

レックミュート

◀方向の早送り、再生中の曲の頭出し

▶方向の早送り、再生中、次の曲の頭出し

STOP

テープ走行ストップ、録音解除

A/B

DECK AとDECK Bの選択

グラフィックイコライザー操作部

ON/FLAT

イコライザーON/OFF

DOWN UP

イコライザープリセットメモリー呼び出し

※グラフィックイコライザーEQ-M555(別売)接続時のみはたらきます。

CDプレーヤー操作部

1度押し:一時停止
2度押し:停止

PLAY

CD演奏スタート

早戻し

早送り

曲の頭へ戻る

次の曲の頭へ進む

オートファンクション操作部

PHONO

レコード演奏が始まりアンプの入力がPHONOに切り替わる
※レコードプレーヤーP-M555(別売)接続時のみはたらきます。

CD

CD演奏が始まりアンプの入力がCDに切り替わる

TUNER

放送を受信し、アンプの入力がTUNERに切り替わる
※チューナー(別売)接続時のみはたらきます。

TAPE

テープ再生が始まり、アンプの入力がTAPEに切り替わる

レコードプレーヤー操作部

レコード演奏スタート、演奏ストップ

※レコードプレーヤーP-M555(別売)接続時のみはたらきます。

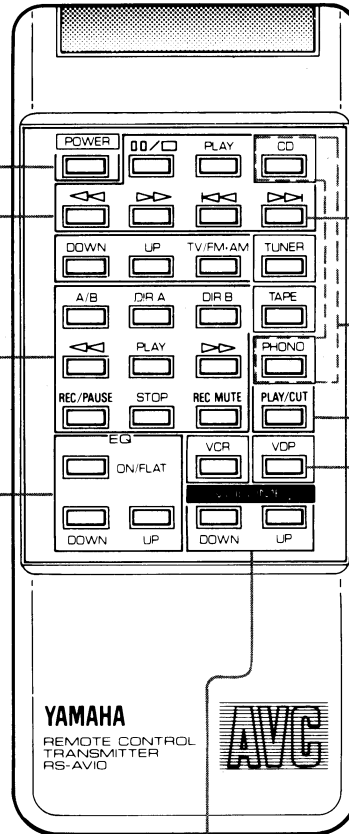
アンプ入力切り替え操作部

VCR

アンプの入力がVCRに切り替わる

VDP

アンプの入力がVDPに切り替わる



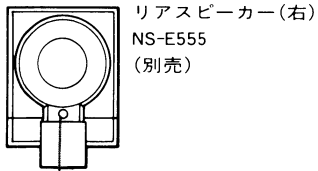
音量調節操作部

音量調節

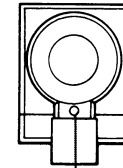
DOWN UP

小 大
音量

CC-104SB接続図

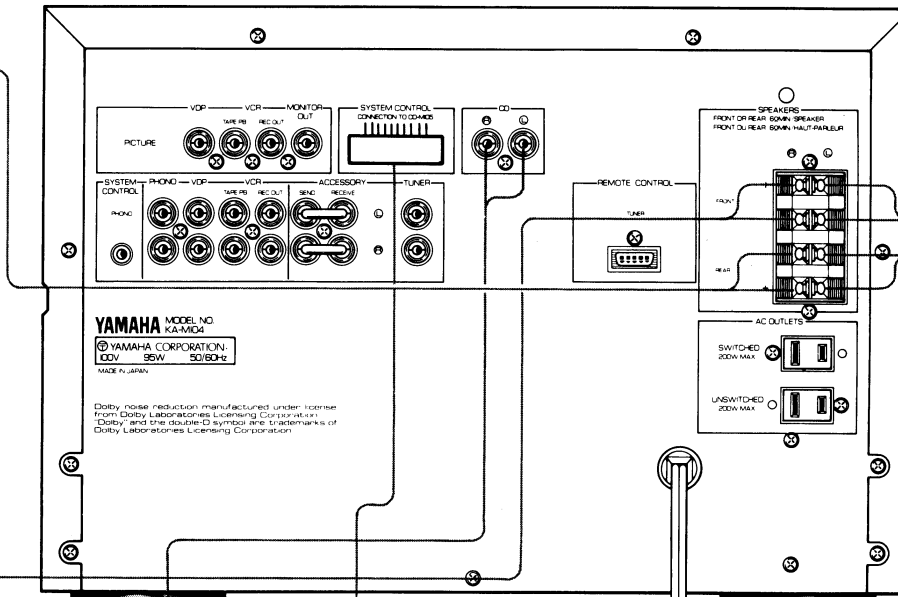


リアスピーカー(右)
NS-E555
(別売)



リアスピーカー(左)
NS-E555
(別売)

カセットアンプ部
KA-M104

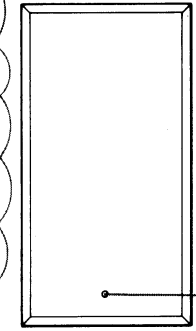


⊖ 黒
⊕ 赤
赤側を⊕に接続してください。

フロントスピーカー(左)
NS-333AV

⊖
⊕
“黒地に白線入り”側を⊕に接続して下さい。

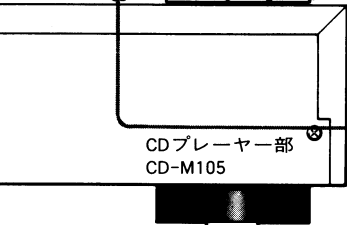
- 電源コンセントの差し込みは、全ての機器間の接続が完了してから行ってください。
- 平型コネクター () は、特にカチッと入るところまで確実に差し込んでください。



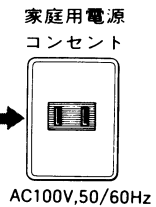
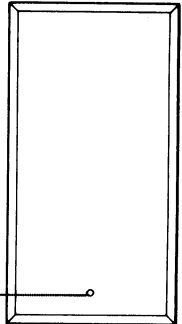
フロントスピーカー(右)
NS-333AV



詳しくは取扱説明書をご覧ください。



最後に接続します。



家庭用電源
コンセント
AC100V,50/60Hz